



刑法審査修正  
才一稿

#218  
467  
1



神戶13  
6467  
d

刑法再訂本第一編



昭和九年五月十四日  
鶴田乙丑氏贈

刑法再訂本第一編

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪。別テ三種ト

爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等罪ト雖モ之

ヲ罰スルヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホス

ヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル

刑法省

心字或字前

者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕ニ從テ處斷ス

第四條 此刑法及於他ノ諸罰則ハ軍人軍屬ニ於テモ之ヲ適用ス但陸海軍ニ關スル特別ノ法律ヲ以テ論ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第五條 此刑法ニ於テ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法總則ノ例ニ依ル

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑トス

主刑ハ必ス之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ノ定ル所ニ從ヒ或ハ之ヲ宣告ス

ニ於テ其宣告スル者ハ宣告セザル者ナラズ

第七條 或ハ之ヲ宣告セズ

第七條 重罪ノ主刑トス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 無期流刑

五 有期流刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁錮

九 輕禁錮

第八條 輕罪ノ主刑

一 重禁獄

刑法省

二 輕禁獄

三 罰金

第九條 違警罪ノ主刑

一 拘留

二 科料

第十條 附加ノ刑

一 剥奪公權

二 停止公權

三 禁治產

四 監視

五 罰金

六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方

法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ニ但規則ニ定ムル所ノ

官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレ

ハ之ヲ執行ス可カラス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フ

ヲ禁ス

第十五條 死刑ヲ宣告シタル婦女懷胎ト申ス

ル時ハ其執行ヲ停メ分娩ノ後一百日ヲ經ル

ニ非サレハ刑ヲ行ハス

若シ醫師二人懷胎ニ非サルヲ證スル時ハ

其執行ヲ停メス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレ  
ハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス  
第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發

遣ニ定役ニ服ス  
徒刑ノ婦女ハ内地ノ懲役場ニ於テ婦女相當  
ノ定役ニ服ス

第十八條 有期徒刑ハ十二年以上十五年以下  
ト為ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ定役ヲ  
免シ其體力相當ノ役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ幽  
閉シ定役ニ服セス

第二十一條 有期流刑ハ十二年以上十五年以

下ト為ス

未定

第二十二條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ  
幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシム  
ルヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ  
第二十三條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役

ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ  
從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年  
以上八年以下ト為ス

第二十四條 禁錮ハ内地ノ禁錮場ニ入レ定役  
ニ服セス

重禁錮ハ九年以上十一年以下輕禁錮ハ六年

刑  
罰  
法  
第  
二  
十  
八  
條

以上八年以下ト為ス

第二十五條 重禁錮ノ囚二年ヲ經過シタル後  
流地ニ移ラント請フ者ハ其刑期間島地ニ發  
遣シ第二十二條ノ例ニ從フヲ得

第二十六條 禁獄ハ監獄ニ留置シ重禁獄ハ定  
役ニ服シ輕禁獄ハ定役ニ服セス

禁獄ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト  
為シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十七條 定役ニ服スル囚人ノ作業ヨリ生  
スル利益ハ分テ三ト為シ其二分ハ獄舎ノ費  
用ニ供シ其一分ハ本犯ニ給與ス

第二十八條 罰金ハ二圓以上ト為シ各本條ニ  
於テ其多寡ヲ區別ス

原  
案  
ハ  
再  
議  
ヲ  
乞  
フ

第二十九條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内  
ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓

ヲ一日ニ折算シ十年以下ノ輕禁獄ニ換フ其  
一圓以下ノ輕禁獄ニ換フ其  
罰金ヲ禁獄ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用セス  
檢事ノ求ニ因リ裁判所長之ヲ命ス  
本犯又ハ親屬其他ノ者代ニ罰金ヲ納ムル時  
ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁獄ヲ免ス

第三十條 拘留ハ拘留場ニ留置シ定役ニ服セ  
ス其刑期ハ一日以上十日以下ト為シ仍ホ各  
本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第三十一條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以  
下ト為シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

刑  
罰  
法  
第  
二  
十  
九  
條

原  
案  
ハ  
再  
議  
ヲ  
乞  
フ

未定

第三十二條 科料ハ十日内ニ納完セシム若シ納完セサル者ハ第二十九條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節 附加刑處分

第三十三條 剥奪公權ハ左ノ權ヲ剥奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト為ルノ權
- 三 勲章年金位記貴號ヲ得ルノ權
- 四 外國ノ勲章ヲ帶ルノ權
- 五 兵籍ニ入り及ビ兵器ヲ帶ルノ權
- 六 證據人ト為テ公正ノ書類ニ調印シ及ビ裁判所ニ於テ證據ヲ申告スルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト為ルノ權但親屬ハ許可ヲ得テ子

孫ト為メニスルハ此限ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト為リ又ハ會社及ビ共有

財産ヲ管理スルノ權

第三十四條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別

ニ宣告ヲ用ヒス終身前條ニ記載シタル公權

ノ全部ヲ剥奪シタルモノトス

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別

ニ宣告ヲ用ヒス現有ノ官職勲章年金位記貴

號ヲ失フモ

第三十六條 禁獄ニ處セラレタル者ハ別ニ宣

告ヲ用ヒス現有ノ官職ヲ失フ

罪金ヲ禁獄ニ換フ  
ハ時モ此例ニ依ル  
○輕罪ハ停止法禁  
則ニ據ル如ク

刑

刑法

刑罰ノ種類



停止公權ヲ廢止  
刑ヲ輕罪前  
各條ニ區別スルノ  
裁ヲ要ス

生ん  
る

死刑

第三十三條ニ記載シタル公權ヲ行フヲ停止ス

第三十七條 禁獄ニ該ル者ハ刑期間公權ヲ停止スルノ外其情狀ニ因リ仍ホ公權ノ全部又ハ幾分ヲ停止スルヲ得其期限ハ各本條ニ記載シタル禁獄ノ期限ニ同シ但輕罪ニ附加スル此條ノ停止公權ハ必ス之ヲ宣告シ主刑ニ終

第三十八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間親カラ財産ヲ治ムルヲ禁ス但其財産ニ後見人ヲシテ之ヲ管理セシム

第三十九條 主刑ニ流刑ノ囚幽閉滿限後其情狀ニ因リ行政上ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ヲ免ズルヲ得

禁錮ノ囚請ニ因テ流地ニ移シタル者亦同シ

第四十條 無期ノ刑ニ處セラレタル者持赦ヲ以テ免罪ヲ得及ビ其期滿免除ヲ經過シタル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス直ニ五年間ノ監視ニ付ス

第四十一條 有期重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス直ニ各本刑短期ノ三分ノ一ニ等シキ時間ノ監視ニ付ス

第四十二條 輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ各

本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス  
第四十三條 監視ハ主刑ノ終リタル日ヨリ其  
期限ヲ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時  
若シ主刑ヲ免シテ止ク監視ニ付シタル時ハ  
其確定ノ日ヨリ起算ス

第四十四條 監視ニ付セラレタル者其情状ニ  
因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ赦宥  
又其赦宥ヲ停止スルヲ得

第四十五條 罰金ハ各本條ニ記載スルノ外之  
ヲ附加スルヲ得ス  
附加ノ罰金ヲ納完セサル者ハ第二十九條ノ  
例ニ照シ主刑滿限ノ後之ヲ輕禁獄ニ換フ

第四十六條 左ノ記載シタル物件ハ宣告シテ

刑罰ノ執行ニ  
關スルモノ

半ノ沒收 不但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例  
ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一法律ニ於テ禁制シタル物件 拍賣ス

二犯罪ノ用ニ供シタル物件 拍賣ス

三犯罪ニ因テ得タル物件 拍賣ス

第四項 物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ  
沒收ス 犯罪ノ用ニ供シタル物件 拍賣ス

第五項 物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又  
ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得

第四節 徵償處分  
第四十七條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾  
分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ

再徵  
刑罰ノ執行ニ  
關スルモノ

刑法省

刑法省

先取権の唯一  
頂而之ナラス身  
刑法ニテ有テ  
先取権ヲ云ハル

刑

以テ之ヲ定ム

第四十八條

犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラ  
ルト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損  
害ノ賠償ヲ免カル、  
請求ハ刑事裁判所ニ於テ民事ノ定規ニ從ヒ  
之ヲ審判スルヲ得

第四十九條

數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ  
還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セ  
シム

第五十條

犯人ノ財産徵償ス可キ金額ニ充  
テ時ハ左ノ順序ニ從テ之ヲ徵償ス

- 一 政府ニ納ム可キ裁判費用
- 二 人民ニ償フ可キ裁判費用

三 賠償

四 罰金

第五節 刑期計算

第五十一條

刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スル  
者ハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スル者ハ三  
十日ヲ以テシ一年ト稱スル者ハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放  
免ノ日ハ正午十二時ヲ以テ一日ト為ス

第五十二條

刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレ  
ハ之ヲ執行ス可カラズ

第五十三條

刑期ハ裁判確定シ本犯ノ自由ヲ  
停止シタル日ヨリ起算ス

若シ亂問中入監シタル者ハ左ノ區別ニ從テ

何月以上滞獄ノ日ヲ共テトス

法律書

其日數ヲ刑期ニ算入ス

一輕禁獄ニ該ル者ハ入監ノ全日數

二重禁獄ニ該ル者ハ入監日數ノ四分ノ三

三重罪ニ該ル者ハ入監日數ノ四分ノ一

第五十四條 刑期限内逃走シ捕テ其逃走ノ日數ヲ以テ刑期ニ算入ス計ルヲ得ス

第六節 假出獄

第五十五條 派刑ヲ除ク外重罪輕罪ノ犯シ改ノ状アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政上ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許ス

無期徒刑ニ處セラレタル者十五年ヲ經過ス

算入法ニ再議ヲ乞フ

刑

第五十六條 仍本島地ニ居住セシム

第五十七條 假出獄ヲ許シタル者ハ本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

第五十八條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入ス

第五十九條 刑期間更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 刑ノ消滅

第六十條 主刑及ヒ附加刑ハ左ノ諸件ニ因テ消滅ス

算入法ニ再議ヲ乞フ

算入法ニ再議ヲ乞フ

一 刑ノ執行終リタル時  
 二 本犯死去シタル時但已ニ宣告シタル罰金  
 科料没收ハ此限ニ在ラス  
 三 新法ヲ以テ刑ヲ廢止シ及ヒ減輕シタル時  
 四 法律ニ從ヒ再審ヲ以テ前判ヲ廢シタル時  
 五 期滿免除ヲ得タル時  
 六 復權ノ許可ヲ得タル時  
 七 大赦特赦ヲ以テ刑ヲ免シタル時  
 八 特赦ヲ以テ刑ヲ減輕シタル時  
 第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ適レタル  
 者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ自  
 ラ免除ヲ得ルモノトス但裁判費用及ヒ還給  
 賠償ノ期滿免除ハ民事ノ規則ニ從フ

前ノ刑ハ  
 字刑ハ

第六十二條 主刑期滿免除ノ年限左ニ從テ  
 一 死刑ハ三十年  
 二 無期徒刑ハ二十五年  
 三 有期徒流刑ハ二十年  
 四 重懲役重禁錮ハ十五年  
 五 輕懲役輕禁錮ハ十年  
 六 禁獄罰金ハ七年  
 七 拘留科料ハ五年  
 第六十三條 剝奪公權停止公權禁治産ハ期滿  
 免除ヲ得ス其餘ノ附加刑ハ左ノ區別ニ從テ  
 一 監視ハ各主刑ニ附加シタル期限以上四分  
 一 經過スル後期滿免除ヲ得其主刑

再裁

日

第八節  
復権

請願ノ手續ニ別  
規程ニ依ル

○  
一 附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ  
三 沒收ハ五年ヲ以テ  
制物ハ  
第六十四條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ適レタル  
日ヨリ起算ス

其關席裁判ニ係ル者ハ宣告ノ日ヨリ起算ス  
第六十五條 刑ノ執行ヲ適レタル者一旦捕ニ  
就キ再々逃走シタル時ハ其逮捕前ノ日數ヲ  
以テ期滿免除ノ限ニ算入スルヲ得ス

第六十六條 復権ハ左ニ記載シタル年限ヲ經  
過スルノ後本犯ノ請願ニ因テ其情狀ヲ量リ  
公權ヲ復ス可キト得

一 剥奪公權ハ主刑消滅ノ日ヨリ五年ノ後  
二 停止公權ハ主刑消滅ノ日ヨリ二年ノ後但  
三 復権ヲ得タル時ハ監視ヲ免シタル者ハ赦  
第六十七條 特赦ヲ以テ免罪ヲ得タル者ハ赦  
狀中復権ス可キヲ記載スルニ非サレハ復  
権ヲ得可カラス

重罪ニ附加シ

第六十八條 大赦特赦及ヒ復権ハ勅裁ニ非サ  
レハ之ヲ施行ス可カラス

第三章

加減例

第六十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ法律ニ照シ加  
重減輕ス可キ者ハ後ノ數條ニ記載シタル例  
ニ從ヒ其刑ヲ加減ス但加ハテ死刑ニ付ル

刑法

ヲ得ス

第七十條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減

ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

第七十一條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等

級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

第四重禁錮

五輕禁錮

第七十二條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時

二年以上五年以下 重禁錮ニ處スルヲ以テ

一等ト為ス

輕禁錮ニ該ル者 *減輕ス可キ時* 二年以上五年以下ノ輕禁

錮ニ處スルヲ以テ一等ト為ス

第七十三條 禁獄罰金ニ該ル者減輕ス可キ時

ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四ノ一

ヲ減スルヲ以テ一等ト為シ其加重ス可キ時

モ亦四ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト為ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁

獄ノ刑期ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

刑法

第七十四條 禁獄罰金ヲ減盡シタル時ハ拘留科料ニ處ス

第七十五條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁獄罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減ス

ルヲ以テ一等ト為ス  
拘留罰金ハ加重シテ十日ニ過ルヲ得ス  
減輕シテ一日以下ニ降スヲ得ス

科料ニ加重シテ三圓九十錢ニ過ルヲ得ス  
減輕シテ五錢以下ニ降スヲ得ス

第七十六條 禁獄拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス

第七十七條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ

其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト為ス若シ減盡シタル時ハ止メ主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ビ減輕  
第八十一節 罪不論罪及ビ宥恕減輕

第七十八條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非スシテ為シタル時ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己及ビ親屬ノ身體ヲ防衛スル為

第七十九條 本属長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ為シタル時ハ其罪ヲ論セス

第八十條 罪ヲ犯ス意ナキノ所為ハ其罪ヲ論セス但法律ニ於テ別ニ疎忽懈怠ノ罪ヲ定メ

同法



此及前ノ意ナシモ前  
條ノ文章同下ナリ  
ルニ依リ又條ノ加フ

タル者ハ此限ニ在ラス  
罪ト為ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者  
ハ其罪ヲ論セス  
罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其  
重キニ從テ論スル下ヲ得ス  
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト  
為ス下ヲ得ス

第八十一條

罪ヲ犯ス時知覺精神ヲ喪失シテ

是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第八十二條

罪ヲ犯ス時年齡十二歳ニ滿サル  
者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ其情  
状ニ因リ特別ニ設ケタル懲治場ニ拘置スル  
下ヲ得其期限ハ本犯ノ年齡滿十六歳ニ過ル

下ヲ得ス  
第八十三條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳  
ニ滿サル者ハ其所為是非ヲ辨別シタルト否  
トヲ審察シ其辨別ナクシテ犯シタル時ハ其  
罪ヲ論セス但前條ノ例ニ照シ本犯滿二十歳  
ニ至ルマテ之ヲ懲治場ニ拘置スル下ヲ得  
若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シ  
テ本刑ニ二等ヲ減ス

第八十四條

罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳  
ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ  
減ス

第八十五條

瘖啞ノ者罪ヲ犯シタル時ハ其罪  
ヲ論セス但其情状ニ因リ五年以下ノ時間ニ

自首減輕

懲治場ニ拘置スルヲ得

第八十六條 違警罪ヲ犯ス時ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ宥恕シテ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘡啞者ハ其罪ヲ論セス

第八十七條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ

於テ自首官ニ首服シテ捕就其謀者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス但本條別ニ自首減輕ノ例ヲ掲クル者ハ此限ニ在ラス

第八十八條 財産物件ニ對スル重罪輕罪ヲ犯シタル者自首シテ其盜取騙取シタル財物ノ

財産物件ニ對シタル罪ハ自首其贓物ノ

別系六

全部ヲ返還シ及ヒ其損害ヲ賠償スル時ハ

自首減等ノ外仍ホ本刑ニ一等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時

第八十九條 前數條ニ記載スルノ外特別ノ不

論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 酌量減輕

第九十條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀

原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ宥恕減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

本刑免レテ止テ並改  
ヲ附シテハ其ハ此處  
ニ補フコト

第九十一條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等  
又ハ二等ヲ減ス但祖父母父母ニ對スル罪ノ  
酌量減輕ハ其本條ニ從フ

第五章 犯罪加重

第一節 再犯加重

第九十二條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者  
再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但再  
犯ノ加重ハ無期ノ刑ニ入ルコトヲ得

第九十三條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタ  
ル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ  
第九十四條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル  
者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ  
違警罪ハ一年內再々其違警罪裁判所ノ管轄

内ニ於テ犯シタル時ニ非サレテ再犯ヲ以テ  
論スルコトヲ得

第九十五條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後

第九十六條 刑期限內再々罪ヲ犯スニ因リ刑  
ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者

先ツ執行ニ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初  
犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共

ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ  
者ヲ執行ス

其罰金科料ニ該ル時ハ初犯再犯、拘、  
各ニ之ヲ科ス

第九十七條 陸海軍裁判所ニ於テ處決ヲ經タ

刑法

ル者再々重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪  
常律ニ從ヒ處断シタル者ニ非サレハ再犯ヲ  
以テ論スルヲ得ス

第九十八條

大赦ニ因テ

免罪ノ得

初犯ノ刑消滅シタル

者ハ再々罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スル  
ヲ得ス

第九十九條

三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法  
ハ再犯ノ例ニ同シ

第二節

官吏犯罪加重

第一百條

犯罪ヲ制止シ又ハ檢彈公訴ス可キ責  
任アル官吏所部内ニ於テ其罪ヲ犯シタル時

初犯ト雖モ再犯ノ例ニ照シ加重ス但本條  
別ニ官吏犯罪ノ刑ヲ定メタル者ハ此例ニ依

テ加重スルヲ得ス

第一百一條

再犯又ハ官吏犯罪ニ因リ加重スル  
外特別ノ加重ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第六章

加重減順序

第一百二條

犯罪ノ情状ニ因リ總則ニ照シ同時  
ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從

テ其刑名ヲ定ム但各本條ニ記載スル特別ノ  
加重減輕ハ其加重減シタル者ヲ以テ本刑ト為  
ス

一減輕

二加重

三酌量減輕

第七章

數罪俱發

第百三條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ裁判ス經ス二罪以上俱ニ發スル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス但

有期ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト為シ刑

期ノ等キ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト為シ禁

第百四條 違警罪二罪以上俱ニ發スル時ハ各

自ニ其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發

スル時ハ一ノ重キニ從フ

第百五條 一罪前ニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪

後ニ發シ其輕ク若クハ等キ者ハ之ヲ論セス

其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後

發ノ刑ニ算入ス

前發ノ刑罰金科料ニ該テ已ニ納完スル後罰

金ヲ科セサルハ刑發シタル時ハ其金額ヲ本

犯ニ還付若シ罰金科料ヲ禁獄拘留ニ換ヘタ

第百六條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト

雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第百七條 二人以上連合シテ現ニ罪ヲ犯シタ

ル者ハ皆正犯ト為シ各自ニ其刑ヲ科ス但法

律ニ於テ犯人ノ多數ニ因リ別ニ其刑ヲ加重

第百八條 詐欺脅迫贈與結約威權其他故意ヲ

正犯ハ身分ヲ見  
做スル

以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者亦正犯ト為ス  
論說ヲ公衆ニ演述シ若クハ文書ヲ刊行公布シ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者亦同シ但法律ニ於テ別ニ教唆者ノ刑ヲ加重シ又ハ教唆ニ止ル者ヲ罰スルハ各其法律ニ從フ

第百九條 二人以上共ニ罪ヲ犯シ一ノ正犯ノ所為ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯及ビ教唆者其所為ヲ共ニセスト雖モ之ヲ豫知シタル者ハ共ニ加重ノ刑ヲ科ス  
一、正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ之ヲ他ノ正犯及ビ教唆者ニ及ホス

得ズ

第百十條 教唆者ハ正犯ト為シテ論スト雖モ犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時其現ニ行ク所ノ正犯ニ算入シテ多數ト為ス

第百十一條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル方法ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シ教唆者ヲ處断ス  
一、所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止メ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス  
二、所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ

刑法

所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第二節 從犯

第百十二條 犯罪ノ情ヲ知リ左ニ記載スル所

為テ以テ正犯ヲ補助シタル者ハ從犯ト為シ

正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

一 正犯ニ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ及ヒ

其他ノ方法ヲ與ヘ犯罪ヲ容易ナラシメタ

ル者

二 豫備ノ所為ヲ以テ犯罪ヲ補助シ又ハ容易

ナラシメタル者

三 犯罪ノ後ニ於テ其終成ヲ補助シタル者

第百十三條 刑ヲ加重ス可キ者附從ト為ル時

ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

刑ヲ減免ス可キ者正犯ト為ルト雖モ附從ノ刑ハ輕ニ從テ減免スルヲ得ス

第九章 未遂犯罪

第百十四條 罪ヲ犯サニテ謀リ又ハ其豫備

ヲ為スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條

別ニ刑名ヲ掲クルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第百十五條 重罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ

行ヒ未タ遂ケサルノ際本犯意外ノ障礙ニ因

リ之ヲ中止シタル時ハ已ニ行テ事ヲ遂ケタ

ル者ノ刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第百十六條 重罪ヲ犯サントシテ已ニ其所為

ヲ盡スト雖モ事後意外ノ舛錯ニ因リ其目的

ヲ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等

又ハ二等ヲ減ス

第百十七條 重罪ヲ犯サントスル所為アリト

雖モ其事物ノ性質又ハ施用ノ方法、於テ害ヲ為スノ理ナク若クハ害ヲ為スト雖モ本犯ノ目的ヲ遂ク可キ理ナキ時ハ止夕現ニ加ヘタル毀傷損害ノ罪ヲ論ス

第百十八條 輕罪ヲ犯サントシテ未夕遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前數條

第百十九條 違警罪ヲ犯サントシテ未夕遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第百十四條 罪ノ輕重ハ其ノ罪ノ輕重ニ依リテ定ムル事ナリ

第百十五條 罪ノ輕重ハ其ノ罪ノ輕重ニ依リテ定ムル事ナリ

第百十六條 罪ノ輕重ハ其ノ罪ノ輕重ニ依リテ定ムル事ナリ

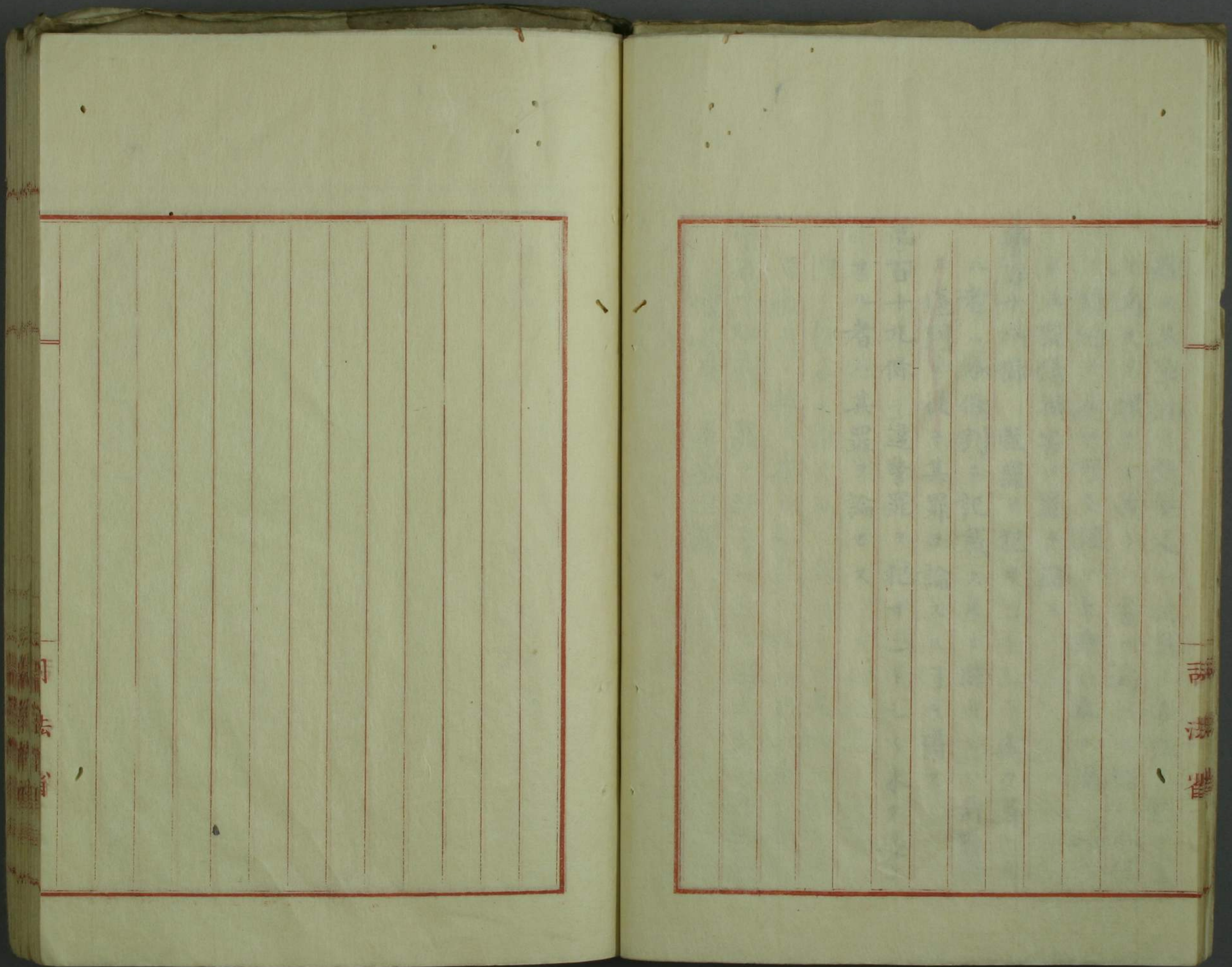
第百十七條 罪ノ輕重ハ其ノ罪ノ輕重ニ依リテ定ムル事ナリ

第百十八條 輕罪ヲ犯サントシテ未夕遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前數條

第百十九條 違警罪ヲ犯サントシテ未夕遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

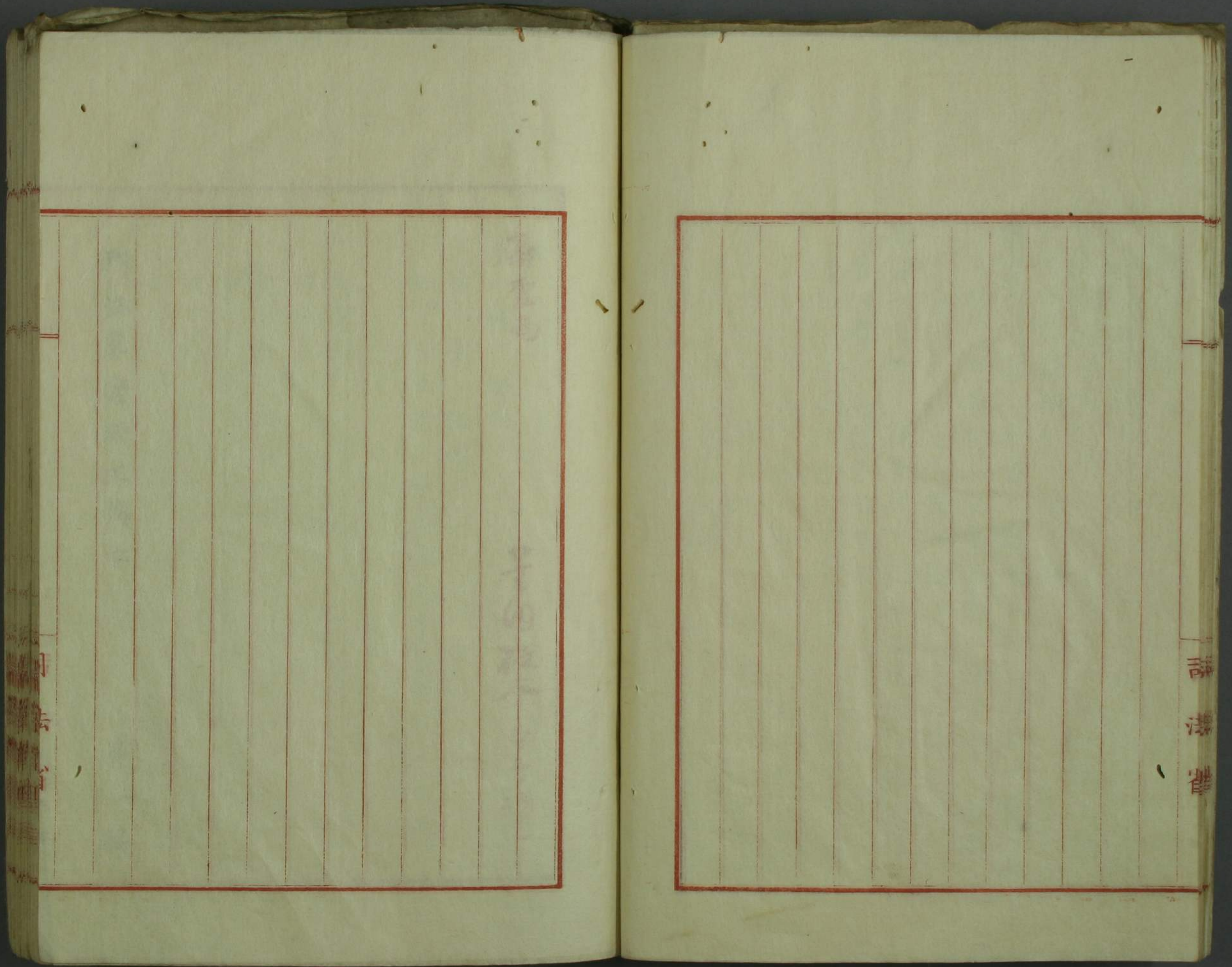
Blank page with vertical red lines for writing.





禮  
樂  
禮

禮  
樂  
禮



Vertical text on the left edge of the left page, likely bleed-through from the reverse side. The text is faint and difficult to read, but appears to be organized in a list or table format.

Vertical text on the right edge of the right page, likely bleed-through from the reverse side. The text is faint and difficult to read, but appears to be organized in a list or table format.

審查局

早田 校本 第二編

刑法草案修正稿本

第一編

刑法草案修正稿本

刑法草案

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所為ト雖

モ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホス

コトヲ得ス

若シ可犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル

刑法章 第一編 第一章 法例

者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ

論ス可キ者ニ施用スルヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則

ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサ

ル者ハ此刑法總則ニ依テ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑トス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セ

サル者トヲ定ム

第七條 左ニ記載スル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト

ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期流刑

五有期徒刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁錮

九輕禁錮

第八條 左ニ記載スル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト

ス

刑法草案

刑罰法

- 一 重禁
- 二 輕禁
- 三 罰金

第九條 左ニ記載スル者ヲ以テ違警罪ノ主刑トス

一 拘留

二 科料

第十條 左ニ記載スル者ヲ以テ附加刑トス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 禁治產

四 監視

五 罰金

此條ニ於テハ  
スト種ニ別ニ  
下ニ於テ得  
法ニ有

第六條 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方

添細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ

官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレ

ハ之ヲ執行ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フ

ヲ禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受タル婦女懷胎ナ

ル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ経ルニ

非サレハ刑ヲ行ハス

刑罰法

徒場ニ入レ定役ニ服ス  
 用獲レシ推シ  
 糶標ト依リ如シ  
 出レ使役タルノ  
 規則ヲモテ  
 婦人ニ使役ニ服ス  
 得ス故ニ内地  
 ニ置ク

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレ  
 ハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス  
 第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ徒  
 場ニ入レ定役ニ服ス  
 有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト為ス  
 第十八條 徒刑ノ婦女ハ内地ハ懲役場ニ於テ  
 婦人ニ相當ノ定役ニ服ス  
 第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ定役ヲ  
 免シ其體カ相當ノ役ニ服ス  
 第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄  
 有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト為ス  
 第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ

流刑ハ役ナシ故ニ  
 婦人ト推シテ遠  
 ス方ニ

幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシム  
 ルヲ得  
 有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ  
 第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役  
 ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ  
 從フ  
 重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年  
 以上八年以下ト為ス  
 第二十三條 禁錮ハ内地ノ禁錮場ニ入レ定役  
 ニ服セス  
 重禁錮ハ九年以上十一年以下輕禁錮ハ六年  
 以上八年以下ト為ス  
 第二十四條 禁獄ハ監獄ニ留置シ重禁獄ハ定

刑去草案審査局

此後六國より既  
故二千五百元  
為三別に設ケル  
改メテ貸金トス  
利息五割資本  
ヲ存スル利  
私債ノ類ナリ

刑法草案

役ニ服シ輕禁獄ハ定役ニ服セス  
禁獄ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト  
為シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス  
第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ作業日ノ且  
且利益ハ分テ三ト為シ其二分ハ獄舎ノ費  
用ニ供シ其一分ハ本犯ニ給與ス  
第二十六條 罰金ハ二圓以上ト為シ各本條ニ  
於テ其多寡ヲ區別ス  
第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内  
ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓  
ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁獄ニ換フ但一圓ニ  
滿サル者ト雖モ一日ニ計算ス  
罰金ヲ禁獄ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス

拘捕ニ換フ  
三十七條ニ準  
テ

檢事ハ本ニ因リ裁判所長之ヲ命ス  
本犯銅限内親屬其他者成リ罰金ヲ納メタル時  
ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁獄ヲ免ス  
第二十八條 拘留ハ拘留場ニ留置シ定役ニ服  
セス其刑期ハ一日以上十日以下ト為シ仍ホ  
各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス  
第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以  
下ト為シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス  
第三十條 科料ハ十日内ニ納完セシム若シ納  
完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘  
留ニ換フ  
第三節 附加刑處分  
第三十一條 剝奪公權ハ尤ノ權ヲ剝奪ス

刑法草案



再議

無事ハ公權ニ  
スルモノアリ

一 國民ノ特權

二 官吏ト為ルノ權

三 勲章年金位記貴免恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勲章ヲ帶スルノ權

五 兵籍ニ入ル及兵籍ヲ帶スルノ權

六 證據人ト為テ公正ノ書類ニ調印シ及裁  
判所ニ於テ證據人ト申告スルノ權但單ニ事  
實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト為ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子  
孫ノ為メニスルハ此限ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト為リ又ハ會社及ヒ共有  
財產ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト為ルノ權

刑法草案審査局

監視ヲ行ハル者ニ  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第廿二條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第廿三條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第廿四條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第廿五條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第廿六條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第廿七條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第廿八條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第廿九條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十一條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十二條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十三條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十四條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十五條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十六條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十七條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十八條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十九條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十一條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十二條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十三條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十四條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十五條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十六條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十七條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十八條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第四十九條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第五十條  
公權ヲ停止セザルハ  
刑罰ヲ失フ

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別  
ニ宣告ヲ用ヒス終身刑ニ記載シタル公權  
ノ全部ヲ剝奪スルモノトス

第三十三條 禁獄ニ處セラレタル者ハ別ニ宣  
告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間  
第三十一條ニ記載シタル公權ヲ術的のり  
止ス

第三十四條 禁獄ニ該ル者ハ刑期間公權ヲ停  
止ス

第三十五條 外其情狀ニ因リ仍ハ公權ノ全部又  
ハ幾分ヲ停止スルヲ得其期限ハ各本條ト  
記載シタル禁獄ノ期限ニ同シ但停止ノ期限ハ  
此條ノ停止公權ハ之ヲ宣告シ主刑ノ終リタ  
ル日ヨリ起算ス

刑法草案審査局

第三十四條

輕罪<sup>刑</sup>に於て監視ニ付<sup>付</sup>置<sup>シ</sup>タル者ハ

<sup>別ニ宣告ヲ用テ監視ノ</sup>期間<sup>ノ</sup>公權ヲ行フコトヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付シタル者亦同シ

刑ニ依剛  
限必終  
刑ニ依剛  
限必終

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別

ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ親カラ敗  
産ヲ治ムルヲ禁ス但其財産ハ後見人ヲシ  
テ之ヲ管理セシム

死刑ノ裁判確定シタル者行刑ニ至ル時間亦  
同シ

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル後  
ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ヲ  
得

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別  
ニ宣告ヲ用ヒス各本刑短期ノ三分ノ一ニ等  
シキ時間ノ監視ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ各  
刑ニ處セラレタル者ハ但  
附加ハ監視ニ付ス

本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス

第三十九條 死刑及ヒ無期ノ刑ノ期滿免除ヲ  
得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間ノ監視  
ニ付ス

第四十條 監視ニ付スル日ヨリ其期  
限ヲ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其  
捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ  
其確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ  
因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ  
得

第四十二條 附加罰金ハ各本條ニ記載スル

刑ニ依剛  
限必終  
刑ニ依剛  
限必終

刑ニ依剛  
限必終

刑ニ依剛  
限必終

刑ニ依剛  
限必終

刑ニ依剛  
限必終

刑ニ依剛  
限必終

一月後直ニ宣告シ  
主刑滿限後之ヲ裁  
行ス

四河金取立方ノ  
多クキ修規則  
ヲ要スル

第三層金利益等  
ヲ指ス然レ盜賊ニモ  
盗ノキニアル者ハ  
之レ但レ後條ニ於テ  
區別ス

刑ノ科  
刑ノ執行  
刑ノ執行  
刑ノ執行

附加ノ罰金ヲ納完セサル者ハ第二十七條ノ  
例ニ照シ主刑滿限ノ後之ヲ輕禁禁ニ換フ

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ

官ニ没收ス但法律規則ニ於テ別ニ没收ノ例  
ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一法律ニ於テ禁制シタル物件

二犯罪ノ用ニ供シタル物件  
犯罪ノ場所ニ在ル者ハ其犯罪  
ニ因テ物品皆沒收ス

三犯罪ニ因テ得タル物件  
贓物ノ類

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何  
人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供  
シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有  
ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スル

第四節 徵償處分  
第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾  
分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ  
以テ之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラ  
ルト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損  
害ノ賠償ヲ免カスルヲ得ス其還給賠償ノ  
請求ハ刑事裁判前ニ於テ民事ノ定規ニ從ヒ  
之ヲ審判スルヲ得

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ  
還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セ

シム  
刑ノ執行  
刑ノ執行  
刑ノ執行

此條ノ費用徵收法  
全備セザレハ  
再行

刑ノ執行

裁判費用ノ取立  
再行

刑ノ執行  
刑ノ執行  
刑ノ執行  
刑ノ執行

十日毎ニシテ  
於テ入ラシメテ  
日數等ハ普通法  
ニ依リ二十日ヲ一  
トス

官署ニシテハ執行  
スルヤラサルヤセ  
別ニ示ス

確定前ニ脱走シタル  
者等ハ再ビ自由ヲ得  
入監シテ執行スル  
ナリ

罪人放免ノ後本籍ニ歸ル者  
規則ニ裁ス

監日數ヲ扣除スル  
雖モ上告並ニ三日ハ  
算入セザル

極短期ノ者ハ悔改  
又下ヤラスニテ  
改正ノ者ハ本  
由別ニ示ス

流刑ノ本刑ニ依  
テ改メテ

第五節 刑期計算

刑法草案

第四十八條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スル  
者ハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スル者ハ三  
十日ヲ以テシ一年ト稱スル者ハ曆ニ從テ  
受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放  
免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第四十九條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレ  
ハ之ヲ執行ス可ク

第五十條 刑期ハ  
止シタル日ヨリ  
若シ糾問中入監  
其日數ヲ刑期ニ  
一輕禁錮ニ該ル

Handwritten notes in red ink, likely explaining the legal provisions or providing examples of calculation.

二重禁錮ニ該ル者ハ入監日數ノ半  
三重罪ニ該ル者ハ入監日數ノ三分ノ一  
第五十一條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就ク者  
ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算  
ス

第六節 假出獄

第五十二條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者  
獄則ヲ謹守シ悔改ノ状アル時ハ其刑期四分  
ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ  
出獄ヲ許スヲ得

無期徒刑ニ處セラレタル者十五年ヲ經過ス  
ルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第五十一條ニ照シ幽閉ヲ免スル

刑法草案

十日毎に之を  
於人ヲ監禁スルノ  
日數等ハ若シ  
二條ノ二十條ヲ  
トス

官署ノミテハ執行  
ニテヤラサルヲモ  
算入スルニテ  
算入スルニテ  
算入スルニテ

確定前ノ脱走シタ  
ル者ハ其ノ自由ヲ  
失フニテ其ノ後  
入監シタル日數  
ハ其ノ前ノ自由  
ノ日數ニテ算入  
スルニテ

罪人放免ノ後本籍  
ニ歸ル者其ノ後  
入監シタル日數  
ハ其ノ前ノ自由  
ノ日數ニテ算入  
スルニテ

極短期ノ者ハ其  
ノ後入監スル日  
數ニテ算入スル  
ニテ

流刑ノ本籍ニテ  
算入スルニテ

第五節 刑期計算

刑法草案

第四十八條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スル  
者ハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スル者ハ三  
十日ヲ以テシ一年ト稱スル者ハ曆ニ從フ  
受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放  
免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第四十九條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレ  
ハ之ヲ執行ス可ク得ス

第五十條 刑期ハ裁判確定シ本犯ノ自由ヲ停  
止シタル日ヨリ起算ス

若シ糾問中入監シタル者ハ左ノ區別ニ從テ  
其日數ヲ刑期ニ算入ス

一 輕禁錮ニ該ル者ハ入監日數ノ四分ノ三

九年  
又方  
但此  
三月

二 重禁錮ニ該ル者ハ入監日數ノ半

三 重罪ニ該ル者ハ入監日數ノ三分ノ一

第五十一條 刑期限内逃走シ再ニ捕ニ就ク者  
ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算  
ス

第六節 假出獄

第五十二條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者  
獄則ヲ謹守シ悔改ノ状アル時ハ其刑期四分  
ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ  
出獄ヲ許スヲ得

無期徒刑ニ處セラレタル者十五年ヲ經過ス  
ルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第五十一條ニ照シ幽閉ヲ免スル

刑法草案

刑法草案

刑期計算

刑罰法 第五編 第六節 刑罰執行

刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スル  
 時ヲ以テシ一月ト稱スル者ハ三  
 シ一年ト稱スル者ハ曆ニ從テ  
 時間ヲ論セス一日ニ算入シ放  
 期ニ算入セス  
 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレ  
 可<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>起算ス  
 判<sup>ハ</sup>裁判確定シ本犯ノ自由ヲ停  
 リ起算ス  
 監シタル者ハ左ノ區別ニ從テ  
 期ニ算入ス  
 囚ル者ハ入監日數ノ四分ノ三

官費ヲ以テ除キテ入監日數ノ四分ノ三

囚ル者ハ入監日數ノ半  
 者ハ入監日數ノ三分ノ一  
 期限内逃走シ再ニ捕ニ就ク者  
 數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算

假出獄

主罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者  
 檢改ノ状アル時ハ其刑期四分  
 ルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ  
 得  
 處セラレタル者十五年ヲ經過ス  
 分二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スル

刑罰法 第五編 第六節 刑罰執行

五年系堂子書式有<sup>レ</sup>誤  
 又方交河ノ罪ニ依リ刑後何  
 案<sup>ハ</sup>禁錮一年ニ起ス  
 但<sup>シ</sup>三月ヲ算入ス  
 又<sup>ハ</sup>三月ヲ算入ス  
 三月ヲ算入ス

刑部省 刑務司

本刑務司本部

治罪ハ本刑務司本部

トアレ此ニ至ラ自ラ

モニナリ拒絶シテ

モ臣命ナシ

刑ヲ受ル者ハ南ヲ罪  
犯シタル者ハ假出獄ヲ  
許サズ假出獄中又  
犯シタル者ハ二回ハ  
假出獄ヲ許ス

外假出ノ例ヲ用ヒス

第五十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許スルハ雖モ

仍ホ島地ニ居住セシム

第五十四條 假出獄ヲ許スル時自ラ治産ヲ拒絶シタル者ハ

内特別ニ定メタル監視ニ付ス

第五十五條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ

刑期ニ算入スルヲ得ス

第五十六條 刑期間更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サズ

第五十七條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ道レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ免除

除ヲ得

第五十八條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一 死刑ハ三十年

二 無期徒流刑ハ二十五年

三 有期徒流刑ハ二十年

四 重懲役重禁錮ハ十五年

五 輕懲役輕禁錮ハ十年

六 禁錮罰金ハ七年

七 拘留料料ハ一年

第五十九條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除

主刑消滅ハ從刑亦消滅ス

刑部省 刑務司

停止公權ト監視ハ

同性質ノ物ニテモ

此ニ指ルルハ停止公權

目ヲ以テシタルハ時間

停止公權ヲ除キ前條ヲ算ス本刑ヲ免除スルハ不  
自ラ免除ヲ得ハ故ニ是レ停止公權ハ主刑後ノ者ヨリ

本刑ノ後ニ科スルモノヲ  
本刑同ノ停止公權



除ヲ得

没収ハ五年ヲ経テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ  
期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十條

期滿免除ハ執行ヲ道レタル時ハ其逃去タル日ヨリ起算シ  
ヨリ起算ス其關席裁判ニ係ル者ハ宣告ノ日ヨリ起算シ

ヨリ起算ス

第六十一條

刑ヲ執行ヲ道レタル時ハ捕縛狀ヲ出シタル  
就キ再々逃走シタル時ハ其逮捕前日數ヲ  
以テ期滿免除ノ限ニ算入スルヨリ得ズ

第六十二條

復権ハ刑ヲ執行シタル者ハ  
主刑ノ執行終リタル日ヨリ五年ヲ

第六十三條

大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直  
ニ復権ヲ得ル者ハ赦狀中ニ記載スルニ非サレハ復  
権ヲ得ず

第六十四條

未赦特赦減輕赦及ヒ復権ハ救裁  
ニ非サレハ之ヲ執行シ得ズ

第三章

加減例

再議

將未ノ字ヲ存スレハ貴号モ復権ノ時迄ハ復セサルナリ又華族ニシテ子公權ナケレハ其族ヲ傳ハリ  
ヲ得ル復権スルト雖モ其内ニ用テ復権ノ後ハ別ニ復権ノ限ヲ為ス規則ヲ作ル

再議

主刑ノ執行終リタル日ヨリ五年ヲ  
主刑ノ執行終リタル日ヨリ五年ヲ  
主刑ノ執行終リタル日ヨリ五年ヲ

再議

第六十三條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直  
ニ復権ヲ得ル者ハ赦狀中ニ記載スルニ非サレハ復  
権ヲ得ず

第六十五條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

第六十六條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第六十七條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重禁錮

五 輕禁錮

第六十八條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ

一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ

一等ト為ス

輕禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ一年以上五

年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト為ス

第六十九條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時

ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一

ヲ減スルヲ以テ一等ト為シ其加重ス可キ時

モ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト為ス

出立せしむ刑ヲ本刑  
ト方ニ叙例ト異リ  
其減等シ拘留科  
跨ル者ニ拘留科  
ニ屬スルヲ得

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁  
科日刑期ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

第七十條 禁錮罰金ヲ減盡シタル時ハ拘留科

料ニ處ス 禁錮罰金ヲ減盡シタル時ハ拘留科

第七十一條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時

ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減ス

ルヲ以テ一等ト為ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但

拘留日刑期ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得

減トシ者一日以下ニ降スヲ得ス

科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得減シ

テ五錢以下ニ降スヲ得ス

第七十二條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期

限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄

第七十三條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ

其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト

為ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十四條 抗拒ス可カラサル時ハ之ヲ

意ハ非サル所為ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危

難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スル

ニ出タル所為亦同シ

第七十五條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ

已レ得タル所  
再議  
三三章五條ノ文ニ  
ニセサレハ死刑  
ノ區別ヲナシ難シ

刑去草  
審察  
查局

刑去草  
審察  
查局

主刑  
罰金ヲ減  
時ハ

以テ為シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十六條 罪ヲ犯ス意ナキノ所為ハ其罪ヲ

論セス但法律ニ於テ別ニ疎虞懈怠ノ罪ヲ定

メタル者ハ此限ニ在ラス

罪ト為ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者

ハ其罪ヲ論セス

罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其

重キニ從テ論スルヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト

為スヲ得ス

第七十七條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因

テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第七十八條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ

其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ其情狀ニ  
因リ特別ニ過キサル時間之ヲ  
得某期限ハ滿十六歳ニ過クテ得ス

第七十九條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳

ニ滿サル者ハ其所為是非ヲ辨別シタルト否

トヲ審案シ其辨別ナクシテ犯シタル時ハ其

罪ヲ論セス但前條ノ例ニ照シ滿二十歳ニ至

ルハ其情狀ニ依リ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シ

テ本刑ニ二等ヲ減ス

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ

滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減

ス

特別減刑ノ旨  
ハ一般ノ旨  
用ニシテハ  
七條ノ  
文例ヲ  
見ル

第 八十一條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但身情狀ニ因リ五年以下ノ時間之ヲ懲治場ニ拘置スルヲ得

第 八十二條 違警罪ヲ犯シタル時ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ宥恕シテ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス

第 八十三條 前條ニ記載スルノ外特別ノ不  
論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス  
第 八十四條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ

於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス其謀故殺ニ係ル者ハ自首ノ限ニ在ラス

第 八十五條 財産犯罪ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ全部ニ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減輕ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半数以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第 八十六條 財産犯罪ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處断ス

第 八十七條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首減輕ノ例ヲ掲グル者ハ各其本條ニ從フ

第 三節 酌量減輕

彼ニ依リテ  
シテ

第百八十八條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス可キ情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スル

ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スル

第百八十九條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス但祖父母父母ニ對スル罪ノ酌量減輕ハ其本條ニ從フ

第百九十条 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第百九十一條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第百九十二條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第百九十三條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後

第百九十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑

ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者

ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ

輕罪ヲ減等シタル者ニハ此例ニ依ル

者ヲ執行ス  
其罰金科料ニ該ル時初犯再犯各自之ヲ

第九十五條 陸海軍裁判所ニ於テ處決ヲ經タ  
ル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪  
常律ニ從ヒ處断シタル者ニ非サレハ再犯ヲ  
以テ論スルヲ得ス

第九十六條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再  
ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルヲ得  
ス

第九十七條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法  
ハ再犯ノ例ニ同シ

第九十八條 再犯ニ因リ加重スルノ外特別ノ  
後條ト見テ教養ノ屬ニ又ハ再犯ニ因テ特別ノ加重ナシ

止リ監視ニ所シタル者  
ハ重罪トモ輕罪トモ  
為テ難シ故ニ再犯  
ニ從ヒテ加重ス  
三犯以上ハ其名アリ  
ト難シ異例ナリ  
刑ノ再議

加重ノ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情状ニ因リ總則ニ照シ同  
時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ  
從テ其刑名ヲ定ム但各本條ニ記載スル特別  
ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト

- 一 再犯加重
- 二 酌量減輕
- 三 酌量減輕
- 四 酌量減輕

第七十條 數罪俱發  
以上俱ニ發スル時ハ重キニ從テ處断ス

未遂犯罪  
九條ヲ云フ  
本刑ヲ定ムル後  
四ノ一ヲ以テ又三  
ノ按等ヲ適用ス  
刑ノ再議  
酌量減輕  
酌量減輕  
酌量減輕  
酌量減輕

此但書以下刑罰  
二條ヲ設ク再議  
附ス  
罰金ノ三ト稱ス最重  
一ト見ルハ  
一犯懲 後者 前科  
二禁錮 先者 再犯  
三重懲 後者 再犯

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト為シ刑期  
等キ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト為ス  
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

一三並發時ハ  
國如處斷ス  
以同ノ法ヲ假出科  
ヲ其ノ其時ニ其改  
一三並發時ハ  
國如處斷ス

第百一條 違警罪二罪以上俱ニ發スル時ハ各  
自ニ其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發  
スル時ハ一ノ重キニ從フ  
第百二條 一罪前ニ發シ己ニ論決ヲ經テ餘罪  
後ニ發シ其輕ク若クハ等キ者ハ之ヲ論セス  
其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後  
發ノ刑ニ算入ス但  
前發ノ刑罰金科料ニ該リ己ニ納完スル後罰  
金ヲ科セザルノ刑發シタル時ハ其金額ヲ本  
犯ニ還付ス若シ罰金科料ヲ禁獄拘留ニ換

折算シ  
刑期ニ  
算入

再議  
折算シタルハ  
折算シタルハ  
折算シタルハ

第百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト  
雖モ其沒収及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ  
第百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ各  
正犯ト為シ各自ニ其刑ヲ科ス  
第百五條 詐欺脅迫贈與結約威權其他故意ヲ  
以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル  
者亦正犯ト為ス  
第百六條 公衆ニ演述シ若クハ文書ヲ刊行公布  
シ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者  
亦同シ但法律ニ於テ別ニ教唆者ノ刑ヲ加重

再議  
其他故意ヲ以テ  
内ニ入ル故ニ刑

第百七條 後發ノ刑ニ算入ス  
第百八章 數人共犯  
第百九章 正犯  
第百十條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ各  
正犯ト為シ各自ニ其刑ヲ科ス  
第百十一條 詐欺脅迫贈與結約威權其他故意ヲ  
以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル  
者亦正犯ト為ス  
第百十二條 公衆ニ演述シ若クハ文書ヲ刊行公布  
シ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者  
亦同シ但法律ニ於テ別ニ教唆者ノ刑ヲ加重

折算シ  
刑期ニ  
算入



刑罰ノ種類  
一 死刑  
二 懲役  
三 禁錮  
四 罰金  
五 拘留  
六 科罰金  
七 戒嚴  
八 保護管束  
九 更生保護  
十 少年院  
十一 少年労働学校  
十二 少年補導院  
十三 少年観望所  
十四 少年相談所  
十五 少年相談員  
十六 少年相談員養成所  
十七 少年相談員養成所  
十八 少年相談員養成所  
十九 少年相談員養成所  
二十 少年相談員養成所

刑罰ノ種類  
一 死刑  
二 懲役  
三 禁錮  
四 罰金  
五 拘留  
六 科罰金  
七 戒嚴  
八 保護管束  
九 更生保護  
十 少年院  
十一 少年労働学校  
十二 少年補導院  
十三 少年観望所  
十四 少年相談所  
十五 少年相談員  
十六 少年相談員養成所  
十七 少年相談員養成所  
十八 少年相談員養成所  
十九 少年相談員養成所  
二十 少年相談員養成所

非議

刑罰ノ種類  
一 死刑  
二 懲役  
三 禁錮  
四 罰金  
五 拘留  
六 科罰金  
七 戒嚴  
八 保護管束  
九 更生保護  
十 少年院  
十一 少年労働学校  
十二 少年補導院  
十三 少年観望所  
十四 少年相談所  
十五 少年相談員  
十六 少年相談員養成所  
十七 少年相談員養成所  
十八 少年相談員養成所  
十九 少年相談員養成所  
二十 少年相談員養成所

但し有期ノ刑ハ刑期長キ者ヲ以テ重ト為シ  
刑期ノ等キ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト為シ  
禁錮罰金ハ禁錮ヲ以テ重ト為ス

第百一條 違警罪二罪以上俱ニ發スル時ハ各  
自ニ其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發  
スル時ハ一ノ重キニ從フ

第百二條 一罪前ニ發シ己ニ論決ヲ經テ餘罪  
後ニ發シ其輕ク若クハ等キ者ハ之ヲ論セス  
其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後  
發ノ刑ニ算入ス但

前發ノ刑罰金科料ニ該リ己ニ納完スル後罰  
金ヲ科セザルノ刑發シタル時ハ其金額ヲ本  
犯ニ還付ス若シ罰金科料ヲ禁錮拘留ニ換ヘ

折算  
刑罰  
算入

刑罰ノ種類  
一 死刑  
二 懲役  
三 禁錮  
四 罰金  
五 拘留  
六 科罰金  
七 戒嚴  
八 保護管束  
九 更生保護  
十 少年院  
十一 少年労働学校  
十二 少年補導院  
十三 少年観望所  
十四 少年相談所  
十五 少年相談員  
十六 少年相談員養成所  
十七 少年相談員養成所  
十八 少年相談員養成所  
十九 少年相談員養成所  
二十 少年相談員養成所

刑罰ノ種類  
一 死刑  
二 懲役  
三 禁錮  
四 罰金  
五 拘留  
六 科罰金  
七 戒嚴  
八 保護管束  
九 更生保護  
十 少年院  
十一 少年労働学校  
十二 少年補導院  
十三 少年観望所  
十四 少年相談所  
十五 少年相談員  
十六 少年相談員養成所  
十七 少年相談員養成所  
十八 少年相談員養成所  
十九 少年相談員養成所  
二十 少年相談員養成所

第百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト  
雖モ其没収及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ各  
正犯ト為シ各自ニ其刑ヲ科ス

第百五條 詐欺脅迫贈與結約威權其他故意ヲ  
以テ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル  
者亦正犯ト為ス

第百六條 公衆ニ演述シ若クハ文書ヲ刊行公布  
シテ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者  
亦同シ但法律ニ於テ教唆者ノ刑ヲ加重ス

刑罰  
算入

シ又ハ教唆ニ止ル者ヲ罰スルハ各其法律ニ從フ

第百六條

正犯ノ行為ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者其可為ヲ禁ニセズト雖モ之ヲ豫知シタル者ハ共ニ加重ノ刑ヲ科ス

正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ及ヒ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヲ得ス

第百七條

教唆者ハ正犯ト為シテ論スト雖モ犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ其現行犯者ヲ正犯ニ算入シテ多數ト為スヲ得ス

再犯ノ身分ノ所為ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者其可為ヲ禁ニセズト雖モ之ヲ豫知シタル者ハ共ニ加重ノ刑ヲ科ス

如キ者ヲ教唆スル者ハ如何

第百八條

事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ニ殊ナル時ハ尤ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處断ス

一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止メ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス  
二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第百九條

犯罪ノ情ヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ行為ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナシタル者ハ從犯ト為

所犯全ク教唆ト認用トモニハ有州長ノ指示ヲ受テ何如

刑法總論 卷之四 第一章 教唆犯

加重ノ點ヲ以テ減等ニ  
 其重キニ從テ  
 正犯ノ身分ニ  
 從犯ノ刑ハ其  
 第百九章 未  
 第百十一條 罪  
 ヲ為スト雖モ  
 別ニ刑名ヲ掲  
 第百十二條 重罪ヲ犯サントシテ己ニ其事ヲ  
 行フト雖モ本犯意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因  
 リ未タ遂ケサル時ハ己ニ遂ケタル者ノ刑ニ  
 一等又ハ二等ヲ減ス

再後

シ正犯ノ刑ニ  
 第百十條 刑ヲ  
 其重キニ從テ  
 正犯ノ身分ニ  
 從犯ノ刑ハ其  
 第百九章 未  
 第百十一條 罪  
 ヲ為スト雖モ  
 別ニ刑名ヲ掲  
 第百十二條 重罪ヲ犯サントシテ己ニ其事ヲ  
 行フト雖モ本犯意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因  
 リ未タ遂ケサル時ハ己ニ遂ケタル者ノ刑ニ  
 一等又ハ二等ヲ減ス

第百十三條 輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ  
 ル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ其罪ヲ  
 論スルコトヲ得ス

第百十四條 違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ  
 サル者ハ其罪ヲ論セス

第百十章 親屬例

第百十五條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ  
 ニ記載シタル親屬トシテモ本條別  
 ニ親屬ノ目ヲ掲クル者ハ此限ニ在ラス

- 一 夫婦祖父母父母
- 二 配偶者ノ祖父母父母
- 三 子孫及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姉妹伯叔父母舅姨姪甥及ヒ其配偶者

刑部省 法律局

加重ノ點ヲ加算ス  
此條ノ加重ハ即チ九  
十九條ニテ得ル本條ノ  
加重ナルヲ以テ先加  
ヘテ減スルニ加減  
順序ト徑符セズ

再後

シ正犯ノ刑ニ一等減ス  
第百十條 刑ヲ加重ス可キ者從犯ト為ル時ハ  
其重キニ從テ一等ヲ減ス  
正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ  
從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ス  
第百九章 未遂犯罪  
第百十一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備  
ヲ為スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條  
別ニ刑名ヲ掲ケタルニ非サレハ其刑ヲ科セス  
第百十二條 重罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ  
行コト雖モ本犯意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因  
リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ  
一等又ハ二等ヲ減ス

刑ニ減スル

刑

第百十三條 輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサ  
ル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ其罪ヲ  
論スルコトヲ得ス  
第百十四條 違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ  
サル者ハ其罪ヲ論セス  
第百十章 親屬例  
第百十五條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左  
ニ記載シタル親屬ニ係ルモノノ親ヲ云フ  
一 親屬ノ目ヲ掲ケル者ハ此限ニ在ラス  
一 夫婦祖父母父母  
二 配偶者ノ祖父母父母  
三 子孫及ヒ其配偶者  
四 兄弟姉妹伯叔父母姪舅姪姪甥及ヒ其配偶者

刑ニ減スル

正犯ノ刑ニ  
從テ減ス  
若シテ  
此ノ點

者從犯ト為ル時ハ  
免ス可キ時ト雖モ  
減免スルヲ得ス  
ヲ謀リ又ハ其豫備  
行ハサル者ハ本條  
レハ其刑ヲ科セス  
トシテ已ニ其事ヲ  
礙若クハ舛錯ニ因  
遂ケタル者ノ刑ニ

トシテ未タ遂ケサ  
ニ非サレハ其罪ヲ  
ントシテ未タ遂ケ

親屬ト稱スルハ  
モ、**親族ノ親ヲ去**  
此限ニ在ラス  
但本條別

姪甥及ヒ其配偶者

刑部省  
法律部  
刑務局

正犯  
刑部省  
法律部  
刑務局

若シテ謀殺ノ後タル事  
如クハ、**謀殺ノ既ニ成ルニ  
至リテハ、其ノ後ニ  
遂ケタル者トシテ、  
其ノ罪ヲ科スルカ  
ニ依リテ、其ノ刑ヲ  
減免スルコトヲ得  
ル。**  
又ハ、**謀殺ノ既ニ成  
ルニ至リテ、其ノ後  
ニ遂ケタル者トシ  
テ、其ノ罪ヲ科スル  
カニ依リテ、其ノ刑  
ヲ減免スルコトヲ  
得ル。**  
此ハ、**豫備ニ止リタル者トシテ、  
無罪トスルコトヲ**

五配偶者ノ兄弟姉妹伯叔父姑舅姨姪甥  
六婦ノ前夫ノ子

刑部  
刑部  
刑部  
刑部  
刑部

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

*[Blank lined page]*

刑部  
刑部  
刑部  
刑部  
刑部

Faint vertical text within a red border on the left page, likely bleed-through from the reverse side.

刑  
法  
草  
律  
審  
查  
局

Blank vertical lines within a red border on the right page.

刑  
法  
草  
律  
審  
查  
局

上皇二字不要  
刪去于至尊  
内三有リト見做  
ス再議

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第百十六條 天皇<sup>天皇</sup>皇太子<sup>皇太子</sup>皇孫<sup>皇孫</sup>皇女<sup>皇女</sup>及<sup>及</sup>皇孫<sup>皇孫</sup>皇女<sup>皇女</sup>ノ宮及<sup>及</sup>東宮<sup>東宮</sup>ニ對シテ危  
害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處

第百十七條 天皇<sup>天皇</sup>皇太子<sup>皇太子</sup>皇孫<sup>皇孫</sup>皇女<sup>皇女</sup>及<sup>及</sup>皇孫<sup>皇孫</sup>皇女<sup>皇女</sup>ノ宮及<sup>及</sup>東宮<sup>東宮</sup>ニ對シテ不  
敬ノ所為アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁

第百十八條 皇族ニ對シテ危害ヲ加ヘタル者ハ  
死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無  
期徒刑ニ處ス

第百十九條 皇族ニ對シテ不敬ノ所為アル者ハ  
二月以上四年以下ノ重禁獄ニ處シ五圓以上

刑法草案



五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪

ニ刑ニ處スル者ハ二年以下ノ監視ニ付ス

第二章 國事ニ関スル罪

第一節 内乱ニ関スル罪

第百二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊

シ其他朝憲ヲ紊乱スルヲ目的ト為シ内乱

ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 首魁及シ其教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ為シ其他樞要ノ職務ヲ為シ

タル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有

期流刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シタル者又ハ諸般ノ職務

ヲ為シタル者ハ重禁錮ニ處シ其情輕キ者

ハ輕禁錮ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケ

テ雜役ニ供シタル者ハ一年以上五年以下

ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條 内乱ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器

彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル

者ハ己ニ内乱ヲ起シタル者ト同刑ニ處ス

第百二十三條 政府ヲ變乱スルノ目的ヲ以テ

人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖

モ内乱ト同ク論シ其教唆者下手者ヲ以テ首

魁ト為ス

教唆下手者ハ首魁  
三十一條ノ二條以  
下ノ節ニ在

刑、再議  
刑

第百二十四條 前三條 罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

第百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内乱ノ豫備ヲ為シタル者ハ第百二十一條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

東豫備ニ至ラズト雖モ内乱ノ陰謀ヲ為シタル者ハ各二等ヲ減ス

第百二十六條 内乱ノ豫備陰謀ヲ為スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ三年以下ノ監視ニ付ス

第百二十七條 内乱ヲ起スト雖モ其力未タ盡キタル前ニ於テ自ら降伏シテ捕ニ就キタル者ハ第百二十一條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

一般ノ赦免ノ刑  
輕重異ナル故ニ  
特別ニ親屬ノ例ヲ指シ  
ハテシテ云フ

第百二十八條 内乱ノ前後ニ於テ情ヲ知テ犯人ニ聚會所ヲ與ヘ又ハ犯人ヲ隠匿シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第百二十九條 内乱ノ際ニ於テ人ノ身體財産ニ對シ内乱ノ目的ニ関セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處断ス

第百三十條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戦中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第百三十一條 交戦中敵兵ヲ誘導シテ本國管

内ニ入ラシメノ若クハ本國及ク同盟國ノ都府  
城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ関スル土  
地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ  
處ス

第百三十二條 本國及ク同盟國ノ軍事ノ機密  
ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ  
道路ノ險夷其他軍事ノ景況ヲ敵國ニ通知シ  
タル者ハ無期流刑ニ處ス

敵國ノ間諜ヲ内地ニ誘導シ又ハ之ヲ藏匿シ  
タル者亦同シ  
第百三十三條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ  
供給シ及ク工作ヲ為ス者交戦ノ際敵國ニ通  
謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ故サラニ命令ニ

違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑  
ニ處ス

第百三十四條 外國ニ對シ私ニ戦端ヲ開キタ  
ル者ハ有期流刑ニ處ス其未ク戦端ヲ開カサ  
ル者ハ一等ヲ減シ豫備ニ止ル者ハ二等ヲ減  
ス

第百三十五條 外國交戦ノ際本國ニ於テ局外  
中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者  
ハ六月以上三年以下ノ輕禁獄ニ處シ十圓以  
上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百三十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕  
罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ二年以下ノ監視  
ニ付ス

前章モ以テ  
三ノ至ル

刑法草案審査局

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第百三十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀  
リ官吏ノ説諭ヲ受ルト雖モ仍ホ解散セサル  
者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重  
禁獄ニ處ス其餘ノ附從ハ二圓以上五圓以下  
ノ罰金ニ處ス

若シ説諭ヲ拒ミ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ  
毆打劇傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ  
從テ處断ス

第百三十八條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧  
鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴  
動ヲ為シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ

再後刪

此場合ニ於テハ  
百四十二條ニ照  
シ重懲役ヲ處ス

處ス其嘯聚ニ應シ痛動シテ勢ヲ助ル者ハ輕  
懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨  
行スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處  
ス

第百三十九條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ暴動ノ  
際官吏ノ説諭ニ服シ直ニ解散シタル者ハ各  
一等ヲ減ス

第百四十條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋  
船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ  
及ヒ火ヲ放ツ者ヲ以テ死刑ニ處シ首魁及ヒ  
教唆者ノ情ヲ知テ助メタル者ハ死刑ニ處ス  
第百四十一條 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル  
罪

再後刪

刑量ニ照シ

歐傷以下ニ照シ  
故ニ百三十九條ニ  
依テ

此場合ニ於テハ  
刑量ニ照シ  
故ニ百三十九條ニ  
依テ

罰金

再議

三百三十七條  
此條、情狀  
ハ若シ又加算ス

第百四十一條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ

執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スル

ニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル

者ハ六月以上四年以下ノ重禁獄ニ處シ五圓

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ為ス可カラサル事

件ヲ行ハシメタル者亦同シ

第百四十二條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆

傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等

ヲ加ヘ重キニ從テ處断ス

第百四十三條 官吏ノ職務ヲ行フニ當リ又ハ

其職務ニ對シ目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ

以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重

刑

一條  
此條  
ハ若シ

禁獄ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

其目前ニ非ラズモ雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ

公然ノ演説ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第百四十四條 文書演説其他ノ方法ヲ以テ官

吏ノ職務ニ於テ不正ノ所為アリト讒毀シタ

ル者其事實ヲ證明スルコト能ハサル時ハ二月

以上二年以下ノ重禁獄ニ處シ五圓以上五十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス但其職務ニ関セサル

事件ニ係ル者ハ第百九十八條ノ例ニ從フ

第百四十五條 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿

スル罪

刑法

月以上六月以下ノ重禁獄ニ處ス

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ為シ

テ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁

獄ニ處ス但無期徒刑ノ囚徒此條ノ罪ヲ犯シ

タル時ハ獄則ニ依テ處分ス

第百四十六條 已決囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖

モ再犯ノ例ニ照シ加重ス可カラス若シ刑期

内再々逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス

第百四十七條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル

者ハ第百四十五條ノ刑ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判

決ス時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シ處断ス

第百四十八條 已決未決ノ囚徒三人以上通謀

シテ逃走シタル時ハ第百四十五條ノ刑ニ照

シ各一等ヲ加フ

第百四十九條 囚徒ヲ逃走セシムル為メ兇器

其他ノ器具ヲ與ヘ又ハ逃走ノ方法ヲ授ケタ

ル者ハ三月以上三年以下ノ重禁獄ニ處シ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚テ囚徒

ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

第百五十條 暴行脅迫ヲ為シテ囚徒ヲ逃走セ

シテ處断ス

ト未決又ハ已決ノ囚徒ニ係ル時ハ一年以上

五年以下ノ重禁獄ニ處シ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ

再議

刑法第五條 暴行脅迫

刑部省 刑部 刑部 刑部

輕懲役ニ處ス

第百五十一條 囚徒ノ看守又ハ護送ノ任アル者囚徒ニ通謀シ若クハ故意ヲ以テ逃走セシメタル時ハ前條ノ刑ニ同シ

再議刑  
○此ルニ未遂犯  
罪ニ至ラズ

○若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ為シ  
\*囚徒ノ逃走セシメタル時ハ各一等ヲ加フ  
第百五十二條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因テ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

再後

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第百五十三條 犯罪人ノ逃走ヲ監視ニ付セラレタル者其監視ニ怠ラシキ時ハ一圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

知テ故ナラニ之ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメタル者ハ十一日以上一ヶ月以下ノ重禁獄ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ナルヲ知テ藏匿シ又ハ隠避セシメタル時ハ一等ヲ加フ

第百五十四條 他人ヲ罪ヲ免カレシムルヲ圖リ謀詭策其<sup>他</sup>罪證ヲ為ル可キ<sup>物</sup>件ヲ隠蔽シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁獄ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者若シ本犯ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第百五十六條 前條ノ記載シタル輕罪ヲ犯サ

○此ルニ未遂犯  
罪ニ至ラズ

再議刑  
○此ルニ未遂犯  
罪ニ至ラズ

刑部省 刑部 刑部 刑部

シトシテ未タ遂ヤタル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處断ス

第四百節 附加刑ノ執行ヲ道ル、罪

第百五十七條 刑奪公推又ハ停母公推ヲ刑

月以上一年以下、~~重~~禁~~刑~~ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十八條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重

禁獄ニ處ス

第百五十九條 前二條ノ犯人ハ再々其罪ヲ犯シタル時ニ依リサレハ再犯ヲ以テ論ス

第百六十條 官命ヲ受メ又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル兵器彈藥ヲ製造シ又ハ私ニ製造ス可カラナル破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁獄ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁~~刑~~ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十一條 前條ノ犯罪ニ関スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル

第五節 兵器彈藥ヲ製造シ及テ貯

有スル罪

第百六十條 官命ヲ受メ又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル兵器彈藥ヲ製造シ又ハ私ニ製造ス可カラナル破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁獄ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁~~刑~~ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十一條 前條ノ犯罪ニ関スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル

刑法草案審檢局

刑法草案審檢局

刑法草案審檢局

刑法草案審檢局

刑法草案審檢局



者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百六十二條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未

タ遂ケタル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處断

ス

第百六十三條 第百六十條ニ記載シタル物品

ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下

ノ罰金ニ處ス

第百六十四條 第百六十條ニ記載シタル物品

ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供

ス可キ者ハ何人ノ所有ニ係ルヲ問ハス皆之

ヲ沒收ス

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第百六十五條 故意ヲ以テ道路橋梁河溝港埠

再議

ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上

二年以下ノ重禁獄ニ處シ五圓以上二十圓以

下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十六條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨

害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ前條ノ刑ニ

同シ

第百六十七條 故意ヲ以テ電信ノ柱木又ハ電

信局ノ器械ヲ損壞シテ電氣ヲ不通ニ致シタ

ル者ハ六月以上三年以下ノ重禁獄ニ處シ十

圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ電信ノ線ヲ切斷シ其他電氣ノ作用ヲ

妨害スルニ止ル者ハ一等ヲ減ス

第百六十八條 汽車ノ往來ヲ妨害スル為メ鉄

強盜ニ依リテ

再議

電外ノ罪ニ依リテ  
院規則ニ依リテ  
不  
方  
ト

司法警察審査局

百七十一條ノ場合  
ニハ其ノ場合ニ因  
テ其ノ場合ニ因  
テ其ノ場合ニ因

此ノ

力

道及之其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障碍ヲ  
為シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百六十九條 船舶ノ往來ヲ妨害スル為メ燈

臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損

壞シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第百七十條 道路郵便電信鉄道燈臺浮標ニ関

スル官吏及ヒ雇人職工自ラ前數條ニ記載シ

タル罪ヲ犯シタル者ハ各本條ノ刑ニ照シ一

等ヲ加フ

第百七十一條 第百六十五條ニ記載シタル罪

ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ豫メ謀テ毆

打創傷スルノ刑ニ照シ重キニ從テ處断ス

何條ノ第百六十八條第百六十九條ノ罪ヲ侵シ

海軍ヲ損壞シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ

因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第百七十二條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サ

シトシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ

照シテ處断ス

第百七十三條 官署及ヒ人ノ住居ニ侵入シ

テ其ノ中ニ滞留シタル者ハ十一月以上二月以下ノ

重禁獄ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所為アル者ハ十個毎ニ

一等ヲ加フ

十家屋内ニ潛伏シタル時

二門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ偽鑰ヲ用ヒテ

入りタル時

刑法草案審判部

再行

三兇器其他犯罪、用ニ供ス可キ物品ヲ持シタル時

四暴行ヲ為シテ入りタル時

五二人以上ニテ入りタル時官署及住居シタル邸

第百七十四條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又春守シタル者ハ一月以上一年月以下ノ重

禁獄ニ處ス加種ス可キ

若シ前條ニ記載シタル所為アル時ハ十個毎

一等ヲ加フ

第百七十五條 故ナク官署及人ノ看守シタル

小卒ノ館舎、社寺自ニ入りタル者ハ前條

ノ刑ニ同

若シ故ナク皇居禁苑離宮行在所及山陵内

一節再議

封印ノ刑  
物ヲ毀シタル  
手印ヲ毀スル  
改メテ

封印ノ刑  
物ヲ毀シタル  
手印ヲ毀スル  
改メテ

刪

第百七十六條 官署、處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁獄ニ處ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第百七十七條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ竊取又ハ毀壞シタル者ハ第百七十四條ニ記載シタル竊盜ノ刑ニ照シ一等ヲ加フ監守者自ラ犯シタル時ハ二等ヲ加フ

第百七十八條 前條ノ罪ヲ犯スニ當リ竊盜ノ各條ニ記載シタル重キ情状アル者ハ仍ホ各條ノ例ニ照シテ加等ス若シ暴行脅迫ノ所為

刑罰法草案

アル時ハ強盗ヲ以テ論ス

第百七十九條 監守者懈怠ニ因テ封印ヲ破棄

シテ物件ヲ竊取毀壞スル犯人アルヲ覺

ズル時ハ強盗ノ罪ニ依リテ罰金ニ處

スルモノトシテ罰金ニ處スル時ハ

一、下以月一、時ハ一、圓ニ處ス

上以圓一、下以圓三ノ間ニ處ス

ノ間ニ處スル時ハ一、圓ニ處ス

ノ間ニ處スル時ハ一、圓ニ處ス

ノ間ニ處スル時ハ一、圓ニ處ス

ノ間ニ處スル時ハ一、圓ニ處ス

ノ間ニ處スル時ハ一、圓ニ處ス

圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ

陳述スルノ命セラレタル者故ナクシテ之

ヲ肯シセサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ニ處ス

第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ

疑アル船舶ハ入港スルニ當リ醫師其病患ヲ

検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルノ命セラ

レ故ナクシテ之ヲ肯シセサル時ハ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタ

ル時ハ一等ヲ減ス

第四章 一般ノ信用ヲ害スル罪

アル時ハ強盗ヲ以テ論ス

第百七十九條 監守者懈怠ニ因テ封印ヲ破棄

シヌハ其物件ヲ竊取毀壞スル犯人アルヲ覺

ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處

ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第百八十條 陸海軍ノ將校タル者 行政司法官署

ヨリ出兵ヲ要求ヲ受ケ之ヲ肯ンセサル時ハ一

月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百八十一條 醫師化学家其他職業ニ因テ官

署ヨリ解剖監定又ハ検査ヲ為スルヲ命セラ

レタル者故ナクシテ之ヲ肯ンセサル時ハ四

二百七十三條  
二名

圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十二條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ

陳述スルルヲ命セラレタル者故ナクシテ之

ヲ肯ンセサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ニ處ス

第百八十三條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ

疑アル船舶ハ入港スルニ當リ醫師其病患ヲ

検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルルヲ命セ

ラレ故ナクシテ之ヲ肯ンセサル時ハ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタ

ル時ハ一等ヲ減ス

第四章 一般ノ信用ヲ害スル罪

若シ  
一應  
一應  
處断ス

印ヲ破棄  
ルヲ覺  
罰金ニ處

ヲ要スル權アル  
司法官署

時ハ一  
以上五

因テ官  
命セラ

時ハ四

證據ヲ

シテ之  
以下ノ罰

得深病ノ  
其病患ヲ

命セ  
五圓以

ヲ犯シタ

罪  
審査局

等百八十一條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ

者身体ヲ毀傷シテ疾病ヲ作為シ其他詐偽ノ

所為ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一

年以下ノ重禁獄ニ處シ三圓以上三十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其姓名ヲ詐稱シ代テ徵募

ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受テ徵募

ニ應シタル者ハ第二百三十四條ノ例ニ照シテ

處断ス

刑法草案

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十四條 内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ

偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ貨幣ニ變造シテ其價額量目ヲ増減シ行

使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百八十五條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金

銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ

處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年

以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上五十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

第百八十六條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙

幣ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタル者ハ内

外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處断ス

第百八十七條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行

使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ六月以上二年

以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以上四十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

第百八十八條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽

造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑

ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ各二

等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル

者ハ各三等ヲ減ス

第百八十九條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知

刑法草案

テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル  
本犯ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ為シテ雜役ニ供シタル者  
ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百九十一條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知ラ  
房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ  
照シ二等ヲ減ス

第百九十二條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入  
シタル者ハ偽造變造ノ本刑ト同ク論ス

第百九十三條 情ヲ知テ偽造變造ノ貨幣ヲ取  
受シテ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シ  
タル者ノ刑ニ照シ二等ヲ減ス

其未ク行使セサル者ハ三等ヲ減ス

第百九十五條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ  
輕罪ノ刑ニ處テタル者ハ二年以下ノ監  
視ニ付ス

第百九十四條 貨幣ヲ偽造變造及ヒ輸入又  
ハ收受シタル者未タ早ク行使セザル者  
覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑  
ヲ免シ三年以下ノ監視ニ付ス

本犯自首ヲ得タル時ハ其職工雜役及ヒ房屋  
若シ給與シタル者並ニ本刑ヲ免シ二年以下ノ  
監視ニ付ス若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シ  
タル者ハ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ監視ニ付  
セス

第百九十五條 貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ始

刑去草案審査局





第二百三條 御重國重官印記號印影蹟ヲ  
得ル之ヲ他ノ文書物品ニ移シ用シタル者  
ハ前條ノ刑ニ同シ

第二百四條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ  
郵便切子ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二  
十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サシ  
トシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照  
シテ處断ス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造シテ行使シタル  
者ハ輕懲役ニ處ス  
官ノ文書ニ記載シタル條件及ヒ月日姓名ヲ

官長改所ノ文書  
皆此内ニテリ

一般毀棄  
重シ故ニ此ノ不

變換シテ行使シタル者亦同シ  
第二百七條 官吏其職務ヲ以テ文書ヲ記載ス  
ルニ當リ故サラニ事實及ヒ月日姓名ヲ變換  
脱漏シタル者ハ重懲役ニ處ス  
已ニ記載シタル文書ヲ増減變換シタル者亦  
同シ

第二百八條 公債証書地券其他官吏ノ公証シ  
タル文書ヲ偽造若クハ變換シテ行使シタル  
者ハ官ノ文書ト同ク論シ前二條ノ例ニ照シテ  
處断ス

若シ無記名ノ公債証書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ  
第二百九條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印  
ヲ使用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重

川去草案審查局



スル罪

第二百十四條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁獄ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ使用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處断ス

第二百十五條 屬籍身分姓名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所為ヲ以テ免狀鑑札ヲ受タル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁獄ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ  
第二百十六條 公務ヲ免タル可キ為メ醫師ノ

三三三三三  
身分ヲ詐稱スル  
罪ナルモ其情重  
ク以テ特ニ此ニ指

本功  
成

姓名ヲ用テ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己又為メニシ他人ノ為メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁獄ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
醫師囑託ヲ受テ其詐偽ノ證書ヲ造リタル時ハ一等ヲ加フ

第二百十七條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ為メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受テ其詐偽ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前条ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ  
第二百十八條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ニ記載シタル條件ヲ變換シテ行使シタル者ハ前条ノ刑ニ記載シタル偽造ノ刑ニ同シ

刑去草案審査局



断ス

一 重罪ニ陥ラシムル為メ偽証シタル者ハ二  
 年以上五年以下ノ重禁獄ニ處シ十圓以上  
 五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陥ラシムル為メ偽証シタル者ハ六  
 月以上二年以下ノ重禁獄ニ處シ四圓以上  
 四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陥ラシムル為メ偽証シタル者ハ  
 一月以上三月以下ノ重禁獄ニ處シ二圓以  
 上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 被告人偽証ノ為メ刑ニ處セ  
 ラレタル後ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ  
 偽証者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ

被告人有罪判明  
 叙ニ處スル者ハ  
 其時ノ最重ノ  
 刑ニ處スル者ニ  
 限リ之ニ減刑  
 限内ノ見込ニ  
 依リ之ヲ減刑  
 タル者ニ此例ノ  
 適用スル者ナ  
 シ

記載シタル偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ刑  
 ニ處ス

其刑期限内於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ  
 現ニ経過シタル日數ニ照シ反坐ノ刑期ヲ減  
 スルコトヲ得但減シテ前條偽証ノ刑ヨリ降ス  
 コトヲ得ス

第二百二十五條 被告人偽証ノ為メ死刑ニ處  
 セラレタル時ハ反坐ノ刑ニ一等ヲ減ス其未ダ刑  
 ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス  
 若シ被告人ヲ死ニ陥ルノ目的ヲ以テ偽証ヲ  
 為シタルノ証アル時ハ死刑ニ反坐ス其未ダ  
 刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一  
 等ヲ減ス

第二百二十六條 民事高事又ハ行政裁判ニ関

刑罰法

刑  
再後  
後刑

シテ偽證ヲ為シタル者一月以上一年以下ノ重禁獄ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其事件終審ノ裁判ニ係ル時ハ二月以上十年以下ノ重禁獄ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十七條 鑑定又ハ通辨ノ為シ裁判所ニ呼出サレシ者詐偽ノ陳述ヲ為シタル時亦前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處断ス

第二百二十八條 偽證又ハ詐偽ノ鑑定通辨ヲ為シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ其罪ヲ免ス

第二百二十九條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通辨ヲ為シタル者亦偽證ノ刑ニ同シ

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪  
第二百三十條 度量衡ヲ偽造又ハ變造シテ其定規ヲ増減シ之ヲ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁獄ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但

若シ官ノ記號印ヲ使用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス

第二百三十一條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス

刑罰法

刑法草案

第二百三十二條 高賈工匠定規ヲ増減シタル  
度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下  
ノ重禁獄ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐  
欺取財ヲ以テ論ス

第二百三十三條 人ノ囑託ヲ受テ度量衡ヲ偽  
造又ハ變造シタル者ハ囑託者ノ刑ニ照シ各  
一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪  
第二百三十四條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ  
以テ其屬籍身分姓名年齢職業ヲ詐稱シタル  
者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

此ノ無罪トス  
殊ニ他ノ法律  
ニ於テ身分ヲ詐  
稱シタル者ハ如  
クハ二圓以上十  
圓以下ノ罰金ニ  
處ス

二百三十三條  
二百三十四條  
云々

第二百三十五條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ  
服飾徽章若クハ内外国ノ勲章ヲ僭用シタル  
者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁獄ニ處シ二  
圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪  
第二百三十六條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其  
數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕  
禁獄ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十七條 投票ヲ檢査シ又ハ其數ヲ計  
算スル任アル者其投票ヲ偽造又ハ増減シ  
タル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁獄ニ處シ  
四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十八條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報

刑法草案審判部



華用阿片之賣業  
規則ニ依ル

告スル者其數ヲ増減シ其他詐為ノ所為アル  
時ハ一年以上五年以下ノ輕禁獄ニ處シ五圓

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 一般ノ健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ヲ販賣スル罪

第二百三十九條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ

又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

税関ノ官吏故ナラニ阿片烟ヲ輸入シ

シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸

入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ重

懲役ニ處ス

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食スル為メニ房

屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス  
人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦  
同シ

第二百四十二條 阿片烟ヲ吸食シタル者

ハ一年以上五年以下ノ重禁獄ニ處ス

第二百四十三條 阿片烟ヲ吸食ノ器具ヲ所

有シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁獄ニ

處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚

穢シ因テ之ヲ用フルヲ能ハサルニ至ラシメ

タル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁獄ニ處

シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

川去直 警察 審 査 局

第二百四十五條

人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用テテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁~~罰~~ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十六條

前條ノ罪ヲ犯スニ因テ人ヲ疾病、罹~~シ~~又ハ死ニ至~~シ~~タル者ハ毆打割傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス若シ人ヲ殺スノ意ニ出タル者ハ毒殺ヲ以テ論ス

第三節

傳染病豫防規則ニ関スル罪

第二百四十七條

船舶入港ノ際傳染病豫防ノ為ノ一時禁止シタル規則ニ背キ上陸又ハ物品ノ陸揚ヲ為シタル者ハ一月以上一年以下

ノ輕禁~~罰~~ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條

船長~~トシテ~~自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知テ禁止セサル者ハ前條ノ刑ニ照シ一等ヲ加フ

第二百四十九條

傳染病流行ノ際ニ當リ豫防規則ニ背キテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁~~罰~~ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十條

獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ背キテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁~~罰~~ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

川法部 警察 審判 局

第四節 危害品及健康ヲ害ス可キ物

品製造ノ規則ニ関スル罪

第二百五十一條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス

可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓

以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シ

タル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十二條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタ

ル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康

ヲ保護スル規則ニ背キタル者ハ前條ノ例ニ

照シ各一等ヲ減ス

第二百五十三條 前條ノ罪ヲ犯スニ因テ人ヲ

死傷疾病ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條

ニ照シ重キニ從テ處断ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ニ藥

劑ヲ販賣スル罪

第二百五十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物

飲食物品ニ混和シ販賣シタ

ル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其

物品ヲ没收ス

第二百五十五條 規則ニ背キテ毒藥劇藥ヲ販

賣シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第二百五十六條 前二條ノ罪ヲ犯スニ因テ人

ヲ死傷疾病ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本

條ニ照シ重キニ從テ處断ス

刑部省 法律局

手未之病者十レ六日  
別改在罰ノ處ヲ  
言ニ傷ノ字ニテ  
兼申スル也

第六節 私ニ醫業ヲ為ス罪

第二百五十七條 官許ヲ得スレテ醫業ヲ為シ

タル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁獄ニ處

シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十八條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤

リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ

各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十九條 公然猥褻ノ所行ヲ為シタル

者ハ十五日以上二月以下ノ重禁獄ニ處シ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥

褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ

十一日以上一月以下ノ重禁獄ニ處シ三圓以

上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 賭場ヲ開設シテ利ヲ圖リ又

ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下

ノ重禁獄ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

第二百六十二條 財物ヲ賭シテ現ニ博變ヲ為

シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁獄ニ處

シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ現場

ノ器具財物ヲ没收ス但戲ニ飲食物ヲ賭スル

者ハ其罪ヲ論セス

若シ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ十等ノ

刑罰法第百零九條

大令  
才何章  
積墓ヲ築  
死  
再後

〇

第二百六十三條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利  
益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上  
六月以下ノ重禁獄ニ處シ五圓以上五十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十四條 神祠佛堂墓所其他礼持所ニ  
對シ公然不敬ノ所行ヲ為シタル者ハ十一日  
以上二月以下ノ輕禁獄ニ處シ又ハ二圓以上  
二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ  
教徒ノ誹教又ハ宗徒ノ禮持ヲ妨害シタル者  
ハ一月以上三月以下ノ輕禁獄ニ處シ又ハ四  
圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十五條 墳塋ヲ發掘シテ棺擲又ハ死  
屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上五年以下ノ重

才何章  
積墓ヲ築  
死  
再後

前

禁調ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス

才何章  
積墓ヲ築  
死  
再後

未遂犯罪ノ例ニ照シテ處断ス

第七章 高業及ヒ工ノ業ヲ妨害スル罪  
第二百六十六條 暴行又ハ偽計ヲ以テ穀類其  
他衆人ノ需用ニ欽ク可カラサル食用物及ヒ

膏油薪炭ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上  
六月以下ノ重禁獄ニ處シ三圓以上三十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

刑部省  
刑部  
刑部  
刑部

重禁調  
二圓以上  
十圓以下  
罰金

他人ノ記号ヲ作  
ル等ハ別段ノ法律ニ依  
ル

前項ニ記載シタル以外ノ商品賣買ヲ妨害シ  
タル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十七條 暴行又ハ偽計ヲ以テ糶賣又  
ハ請負人入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上

三月以下ノ重禁獄ニ處シ二圓以上二十圓以  
下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十八條 暴行又ハ偽計ヲ以テ工業ヲ  
妨害シタル者ハ二十日以上四月以下ノ重禁

獄ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス

第二百六十九條 職工其雇賃ヲ増サシメ又ハ  
工業ノ景況ヲ變ヒシムル為メ製造主及ヒ他

ノ職工ニ對シ暴行偽計ヲ以テ妨害ヲ為シタ  
ル者ハ前條ノ刑ニ照シ一等ヲ加フ

第二百七十條 製造主其職工ノ雇賃ヲ減セシ  
メ又ハ工業ノ景況ヲ變ヒシムル為メ職工及

ヒ他ノ製造主ニ對シ暴行偽計ヲ以テ妨害ヲ  
為シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二百七十一條 虚偽ノ風説ヲ流布シテ穀類  
其他衆人需用物品ノ真價昂低セシメタル

者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 第八章 官吏瀆職ノ罪

#### 第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十二條 官吏故意ヲ以テ自己ノ管掌  
ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官  
吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六

再議 二子

百七十三條

月以下ノ輕禁錮ニ處シ 十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十三條

兵隊

ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スルノ權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ故サラニ其處分ヲ為サ、ル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

再議

第二百七十四條

官吏其職務ニ関シタル事ニ於テ高業ヲ為シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス但自己所有地内ノ生産物ヲ販賣スル者ハ高業ヲ為スヲ以テ論スルヲ得ス

第二節

官吏人民ニ對スル罪

第二百七十五條

官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其為ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十六條

人ノ身軀財産ヲ妨害スル犯人アルニ當リ檢事警察官吏其報告ヲ受テ速ニ保護ノ處分ヲ為サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條

逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ守ラスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ拘置シタル者ハ十五日以上三月以下ノ

罰金ヲ附加ス

捕ニ進捕逆禁ノ  
第百七十三條

二百七十三條ノ  
ヲ要求スル者ハ  
拘捕ヲ得ス

刑部  
法律  
警察  
審判  
局

旧三万  
字至  
見  
下

重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ  
附加ス但拘置ノ日數十日ヲ過ル毎ニ一等ヲ  
加フ

第二百七十八條 司獄官吏其裁判宣告書ヲ檢  
視セス又ハ程式規則ヲ守ラスシテ囚人ヲ拘  
置シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ命ヲ受  
ケ及ヒ刑期滿限ノ時ニ至リ之ヲ放免セサル  
者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百七十九條 前二條ノ官吏又ハ護送人囚  
人ニ對シ苛刻ノ所為ヲ施シ若クハ傷害ヲ加  
ヘタル時ハ第三百二十二條第三百二十三條  
第三百二十四條ノ例ニ照シ一等ヲ加ヘ重キ  
ニ從テ處断ス

第二百八十條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告  
人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル為メニ暴行ヲ  
加ヘ又ハ陵虐ノ所為ヲ為ル者ハ三月以上三年  
以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス

若シ被告人ニ傷害ヲ加ヘタル時ハ殴打創傷  
ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處断  
ス

第二百八十一條 裁判官故ナクシテ民事刑事  
ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者  
ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓  
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百八十二條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄

刑罰法  
審判部  
審判局



賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以  
上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓  
以下ノ罰金ヲ附加ス因テ不正ノ處分ヲ為シ  
タル者ハ一等ヲ加フ

第二百八十三條 裁判官民事ノ裁判ニ関シテ  
賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ前條  
ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百八十四條 裁判官檢察官吏及ヒ參  
事刑事ノ裁判ニ関シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之  
ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁  
錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス  
因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年

以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上六十圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス  
其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以  
下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス若シ其枉斷シタル所ノ刑此刑ヨ  
リ重キ時ハ第二百二十四條第二百二十五條  
ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十五條 裁判官檢察官吏及ヒ參  
事賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又  
ハ怨ヲ挾テ故サラニ被告人ヲ罪ニ出入  
シタル者ハ前條ニ記載シタル曲庇陷害ノ刑  
ニ處ス

第二百八十六條 前數條ニ記載シタル賄賂

刑去專察審查局

收受シタル者ハ之ヲ没收ス。費用ル者ハ其價ヲ追徴ス。

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十七條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀

物件ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ刑ニ照シ二等

ヲ加フ

若シ此罪ヲ犯スニ因テ官ノ文書簿冊ヲ増減

變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百七條ノ例

ニ照シテ處断ス

第二百八十八條 監守ニ非サル官吏及官署

ノ使ト其官署ニ屬スル金穀物件ヲ竊取シタ

ル者ハ竊盜ノ刑ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十九條 租稅其他諸般ノ入額ヲ領取

存スルニ法

剛ニ再議

産人ノ等ノ盜取  
ヲ除ク故ニ此条ノ  
剛ハハシ

再議

竊盜ノ刑條ニシテ  
罰金ヲ加フ

スルハ任アル官吏私利ヲ圖テ故サラニ正數  
外ノ金穀ヲ領取シタル者ハ自ラ求索スルト  
否トテ分テス。且月以上五年以下ノ重禁錮ニ  
處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

の何故此條ニ此載シタル者ハ六月以上二年以下ノ監禁ニ附シ

再議ヲシテ其條ノ以テ此條ノ請訴ヲ求及ヒ既事過録ハ

請訴ニテ条トオシ一節ヲ設ク可キ事

刑法修正案

第三編

刑法修正案編查局

刑法修正案編查局

Faint vertical text columns within a red border on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

第三編 人、身、身財、財產ニ對スル重罪、輕罪

第一章 身、身財ニ對スル罪

第一節 謀殺、故殺ノ罪

第二百九十條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀

殺ノ罪ト為シ死刑ニ處ス

第二百九十一條 ~~殺~~ヲ用テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論

シ死刑ニ處ス

第二百九十二條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者

ハ故殺ノ罪ト為シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十三條 支解、折割、其他慘刺ノ所為ヲ

以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十四條 重罪、輕罪ヲ犯スニ便利ナル

罪ト為シ死刑ニ處ス

謀殺ノ所ハ在極初  
第百九十一條ニ  
以テ人ヲ殺シタル  
謀殺ニ在極初

詐稱殺人ハ其罪セラニ自  
ラ殺シテ所アリ故ニ殊  
謀ノカニ其期法刑也

第百九十六條  
謀殺故殺ヲ行テ誤テ他人ヲ  
殺シタル者ハ仍ホ謀殺故殺ヲ以テ論ス

四肢の内ニラタシニ  
四肢ノ内ニラタシニ  
四肢ノ内ニラタシニ  
四肢ノ内ニラタシニ

為メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免タルハ為メ人  
ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十五條 人ヲ殺スル意ニ出テ詐稱誘  
導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ

以テ論シ其謀メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス  
第二百九十六條 謀殺故殺ヲ行テ誤テ他人ヲ

殺シタル者ハ仍ホ謀殺故殺ヲ以テ論ス  
第二百九十七條 故意ヲ以テ人ヲ毆打割傷シ

因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス  
第二百九十八條 故意ヲ以テ人ヲ毆打割傷シ

其両目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及  
七舌ヲ断テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知學精神ヲ

喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處  
ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一股ヲ折リ其  
他身體ヲ殘廢シ廢疾ニ致シタル者ハ二年以

上五年以下ノ重禁錮ニ處ス  
第二百九十九條 故意ヲ以テ人ヲ毆打割傷シ

二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營  
ムルハサレニ至ラシメタル者ハ一年以

上三年以下ノ重禁錮ニ處ス  
其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一

月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
疾病休業ニ至ラスト雖モ身体ニ割傷ヲ成シ

タル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處

刑法  
第百九十六條  
謀殺故殺ヲ行テ誤テ他人ヲ  
殺シタル者ハ仍ホ謀殺故殺ヲ以テ論ス

刑部省  
刑部  
刑部

第三百條 豫ノ謀テ人ヲ毆打シテ創傷及ヒ  
癢篤疾スハ死ニ致シタル者ハ前數條ノ刑ニ  
照シ各一等ヲ加フ

第三百一條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル為メ  
又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カレハ為メ人ヲ毆  
打創傷シタル者ハ前條ノ例ニ同シ但強盜人  
ヲ死傷ニ致シタル者ハ強盜ノ本條ニ從フ

第三百二條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタ  
ル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百三條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタ  
ル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ  
各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ

各例ノ其犯下例ヲ  
異ニスル者ヲ云フ  
教唆者ハ其例ニ依  
テ  
前條ニテ甲百ヲ  
二百ヲ課スルハ若  
教唆同罪ノ後  
一等ヲ減ス

再  
二人以上共ニ  
自  
現  
三犯ニ種ナリ

輕重ヲ知ルノ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照  
シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス  
第三百四條 故意ヲ以テ人ヲ健康ヲ害ス可キ  
物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫  
メ謀テ毆打創傷スルノ刑ニ照シテ處断ス

第三百五條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ故  
テニ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷  
ニ致シタル者ハ其豫メ謀ルト否トヲ區別シ  
毆打創傷ノ刑ニ照シテ處断ス

第三百六條 自己ノ身軀ニ暴行ヲ受ルニ因リ  
直ニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺シ又ハ毆打創  
傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所為ニ

以下ノ殺害ハ故殺  
ハ前條ノ内ニ在リ

刑部省  
刑部  
刑部

刑部  
刑部  
刑部

殺傷の元

後援

因リ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百七條 人ノ暴行ヲ受ルヲ見テ直ニ怒  
ヲ發シ暴行人ヲ殺殺傷シタル者ハ情状ニ  
因リ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百八條 殴打シテ互ニ相創傷シ其手ヲ下  
スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各本刑ヲ宥  
恕スルコトヲ得

第三百九條 本夫其婦ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ  
於テ直ニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺殺傷シタル  
者ハ其罪ヲ宥恕ス但先ニ姦通ヲ縱容シタル  
者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 晝間故トク人ノ住居シタル邸宅  
ニ侵入シ若クハ踰越損壞ヒシトスル者ヲ防

止スル之ヲ殺殺傷シタル時ハ其罪ヲ宥恕  
ス

剛  
不悔罪ハ

第三百十一條 竊盜ヲ防止シ又ハ直ニ其盜  
賊ヲ取還スル為メ犯人ヲ殺殺傷シタル  
者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十二條 前數條ニ記載シタル殺傷ノ罪  
ハ宥恕ス可キ者ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三  
等ヲ減ス

第三百十三條 身躰生命ヲ正當ニ防衛シ己ハ  
コトヲ得ナルニ出テ暴行人ヲ殺殺傷シタル  
者ハ自己ノ為メニシ他人ノ為メニスルヲ分  
クス其罪ヲ論ヤス但不正ノ所為ニ因リ自ラ  
暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

刑法典

第三百十四條

左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得ルニ出テ人ヲ殺殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

一動産不動産ニ對シテ人ニ暴行ヲ為ス者

又ハ動産不動産ニ放火スル者ヲ防止スル

ニ出タル時

ニ~~出~~盜ヲ防止シ又ハ~~出~~盜・賊ヲ取還スルニ

出タル時

三夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ侵入シ

若クハ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

時

第三百十五條 身躰財産ヲ防衛スルニ出ルト

雖モ已ムコトヲ得タルニ非スレバ害ヲ暴行人

ニ如ハ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ

乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ如ハタル者ハ不論罪

ノ限ニ在ラス但第百十二條ノ例ニ照シ其

罪ヲ宥恕ス

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十六條 疎虞解怠又ハ規則慣習ヲ遵守

セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二月

以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上

百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十七條 過失ニ因テ人ヲ創傷ニ發篤疾

ニ致シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮

ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處

ス



第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病・  
罹リ又ハ休業・ニ至ラシメタル者ハ十一  
日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二圓以  
上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ関スル罪

第三百十九條 人ヲ教唆シテ自殺セシメタル  
者又ハ囑託ヲ受テ自殺人ノ為メニ手ヲ下シ  
タル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ  
十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自  
殺ノ補助ヲ為シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十條 自己ヲ利慾ヲ逞スルノ意ニ出  
テ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役  
ニ處ス

刑罰法  
第三百二十條  
自己ヲ利慾ヲ逞スルノ意ニ出テ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ六月以上四年以下ノ重懲役ニ處ス

再談  
剛

不始ニ為情ニ支  
又初案ニモ不答

第三百二十一條 自殺者已ニ其事ヲ行シテ未  
タ遂行サレ時ニ前二條ノ犯人ハ未遂犯罪ノ  
例ニ照シテ處断ス

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪  
擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪  
擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪  
擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打  
拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所為  
ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮  
ニ處シ五圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打  
拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所為  
ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮  
ニ處シ五圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打  
拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所為  
ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮  
ニ處シ五圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

監禁中ノ仕事  
日數ニ算シ重傷ノ

急遽ノ際解ニ違  
カレハ勿論  
科メテ罰金ニ付  
不享再議

第三百二十四條

前條ノ罪ヲ犯スニ因テ疾病傷  
休業ニ至ラシメ及ヒ廢篤疾又ハ死ニ致シタ  
ル者ハ毆打創傷各本條ニ照シテ等ヲ加ヘ  
重キニ從テ處断ス

第三百二十五條

擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ  
際故サラニ其監禁ヲ解カズ急ニ死傷ニ致シ  
タル者亦前條ノ例ニ同シ

第三百二十六條

人ヲ殺サント脅迫シ又ハ其  
住居スル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ  
一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上  
二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財

産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二

第三百二十七條

兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯  
シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條

親屬ニ害ヲ被ラシム可キ事  
ヲ以テ脅迫シタル者ハ直ニ本  
人ニ對シテ脅迫シタルノ罪ト同ク前二條ノ例ニ照シテ處断ス

第三百二十九條

前數條ノ犯罪ハ脅迫ヲ受タ  
ル者又ハ其親屬代人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第八節 墮胎ノ罪

刑法草案

此處等語に於て母の  
ハ不仕

第三百三十條 懷胎ノ婦女自。藥物ヲ用ヒ又

ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以  
上ハ一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎

セシメタル者ハ前條ノ刑ニ同シ因テ婦女ヲ  
死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁  
錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥舖前條ノ罪

ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼又ハ誑騙

シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上五年以下  
ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆

打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル  
者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其故  
ナラニ墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲  
役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ廢篤

疾又ハ死ニ致シタル者ハ康ノ謀ルト否トヲ  
區別シ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ  
處断ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 一歲ニ滿ナル幼者ヲ遺棄シ

タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
自ラ生活スルヲ能ハサル老者疾病者ヲ遺棄  
シタル者亦同シ

再議

第百三十七條 一歳ニ滿サル幼者又ハ老

疾者ハ寡聞無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月

第百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ

保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各

第百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シテ之ヲ

廢疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致

シタル者ハ重懲役ニ處ス因テ死ニ致シタル

第百四十條 自己ノ所有地又ハ管守ス可キ

刑  
ル

覺知シテ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサ

ル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ前項ノ地内ニ昏倒スル者ヲ

ル者ヲ覺知シテ扶助又ハ申告セサル者亦同

第百四十一條 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

ト又ハ偽計其他ノ方法ヲ以テ誘拐シテ自ラ

藏匿シ又ハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上

以下ノ罰金ヲ附加ス

第百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル

幼者ヲ畧取シテ自ラ藏匿シ又ハ他人ニ交付

刑  
罰  
法  
第  
百  
三  
十  
七  
條

シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處  
シ十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘  
拐シテ自ラ藏匿シ又ハ他人ニ交付シタル者  
ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以  
上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第 三百四十三條 畧取誘拐シタル幼者ナルハ  
ヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト為シ又ハ其他ノ各  
稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ畧取誘拐ノ刑  
ニ照シ各一等ヲ減ス

第 三百四十四條 前數條ニ記載シタル畧取誘  
拐ノ罪ハ被害者又ハ其親屬代人ノ告訴ヲ待  
テ其罪ヲ論ス但畧誘<sup>取</sup>セ<sup>拐</sup>ラレタル幼者式ニ從  
テ婚姻ヲ為シタル時ハ其罪ヲ論セス

第 三百四十五條 二十歳ニ滿サレ幼者ヲ畧取  
誘拐シ因テ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役  
ニ處ス

第 十一節 猥褻姦淫重昏ノ罪

第 三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ  
猥褻ノ所行ヲ為シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ  
對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ為シタル  
者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓  
以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第 三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ  
暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ為シタル者ハ  
二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上  
四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○

第 三 百 四 十 八 條 十 二 歳 以 上 ノ 婦 女 ニ 對 シ テ

強 姦 シ タ ル 者 ハ 輕 懲 役 ニ 處 ス

方 畧 ヲ 用 ヒ テ 人 ヲ 昏 睡 セ シ メ 又 ハ 精 神 ヲ 錯

乱 セ シ メ テ 姦 淫 シ タ ル 者 ハ 強 姦 ヲ 以 テ 論 ス

第 三 百 四 十 九 條 十 二 歳 ニ 滿 サ ル 幼 女 ヲ 姦 淫

シ タ ル 者 ハ 輕 懲 役 ニ 處 ス 若 シ 強 姦 シ タ ル 者

ハ 重 懲 役 ニ 處 ス

第 三 百 五 十 條 前 數 條 ノ 犯 罪 ハ 被 害 者 又 ハ 其

親 屬 代 理 人 ノ 告 訴 ヲ 待 テ 其 罪 ヲ 論 ス

第 三 百 五 十 一 條 前 數 條 ノ 犯 罪 ヲ 犯 ス 因 テ 人

ヲ 死 傷 二 致 シ タ ル 者 ハ 第 三 百 五 十 條 ノ 例 照 シ

テ 處 断 ス 但 強 姦 二 依 テ 人 ヲ 死 傷 二 致 シ タ ル 者 ハ 第 三 百 五 十 一 條 ノ 例 照 シ 處 断 ス

第 三 百 五 十 二 條 自 己 ノ 利 益 ヲ 圖 リ 十 六 歳 ニ

代 人 告 訴 人 同 罪  
華 旦 律 ノ 傷 死  
ト 權 衡 不 著  
強 姦 ノ 傷 傷 刑  
刑 ヲ 輕 ト ス  
強 姦 罪 存 否 若  
ト 見 做 不  
本 法 三 百 五 十 一 條 下 十 六 歳 以 上 十 二 歳 以 下 之 婦 女 二 對 シ 強 姦 罪 二 依 テ 人 ヲ 死 傷 二 致 シ タ ル 者 ハ 第 三 百 五 十 一 條 ノ 例 照 シ 處 断 ス

○

滿 十 七 男 女 ノ 淫 行 ヲ 勸 誘 媒 合 シ タ ル 者 ハ 一

月 以 上 六 月 以 下 ノ 重 禁 錮 ニ 處 シ 二 圓 以 上 二

十 圓 以 下 ノ 罰 金 ヲ 附 加 ス

第 三 百 五 十 三 條 有 夫 ノ 婦 姦 通 シ タ ル 者 ハ 六

月 以 上 二 年 以 下 ノ 重 禁 錮 ニ 處 ス 其 相 姦 ス ル

者 亦 同 シ

有 夫 姦 ハ 本 夫 ノ 告 訴 ヲ 待 テ 其 罪 ヲ 論 ス 若 シ

本 夫 先 キ 二 其 姦 ヲ 縱 容 シ タ ル 者 ハ 告 訴 ノ 例

ナ シ

第 三 百 五 十 四 條 配 偶 者 ア ル 者 重 子 テ 昏 姻 ヲ

為 シ タ ル 時 ハ 六 月 以 上 二 年 以 下 ノ 重 禁 錮 ニ

處 シ 五 圓 以 上 五 十 圓 以 下 ノ 罰 金 ヲ 附 加 ス

第 十 二 節 証 告 及 ビ 毀 壞 罪 名 譽 害 ス

刑 法 講 義 卷 第 一 編

罪

○ 茅三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ茅二百二十三條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處断ス

○ 茅三百五十六條 誣告ヲ為スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ其罪ヲ論セス

○ 茅三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ茅二百二十四條茅二百二十五條ニ記載シタル例ニ照シテ誣告者ヲ反坐ス

○ 茅三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誣毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處断ス

二子刑サレハ不子

一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誣毀シタル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作為シテ人ヲ誣毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○ 茅三百五十九條 死者ヲ誣毀シタル者ハ其罪故サラニ誣罔ニ出タル者ニ非サレハ誣毀ノ罪ヲ論セス

○ 茅三百六十條 醫師藥舖標導又ハ代言人代書人公證人若クハ神官僧侶其身今職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因テ知得タル陰私ヲ故

○ 誣毀ノ罪ヲ論セス

刑罰法

高ノ字數在條ニ改メ

此場合ニ於テ親族ノ

裁判所ニ於テ事實ヲ陳述スルハ法律上ノ罪ヲ科スルノ限アリ

又、其ノ事トシテモ、姑ク衆議院ニ送リ

此等ノ人ハ當人ニ限リ、在者、ハハ初級

ナラニ漏告シタル者ハ、讒毀ヲ以テ論シ、十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ、二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。○ 其委託ヲ受ケタル事件ニ付テハ、裁判所ニ於テ、證人ト為ルル者、辭スルコトヲ得、然レモ、事實ヲ陳述スル、雖モ前項ノ刑ヲ科スルノ限ニ在ラス

第百六十一條

此節ニ記載シタル讒毀ノ罪ハ、被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ、其罪ヲ論ス、但シ、死者ノ親屬トシテ、之ヲ告訴スルコトヲ得

第百六十二條

祖父父母父母ニ對スル罪、子孫其祖父父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ、死刑ニ處ス

其自殺ニ関スル罪ハ、凡人ノ刑ニ照シ、二等ヲ加フ

第百六十三條

子孫其祖父父母ヲ毆打刺傷シ、若クハ其健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シ、其他監禁脅迫及ヒ遺棄誣告讒毀等ノ罪ヲ犯シタル者ハ、各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ、二等ヲ加フ、但シ、廢疾ニ致シタル者ハ、重懲役ニ處シ、篤疾ニ致シタル者ハ、有期徒刑ニ處シ、死ニ致シタル者ハ、死刑ニ處ス

第百六十四條

子孫其祖父父母ニ對シ、衣食ヲ供給セス、其他必要ナル奉養ヲ缺ク者ハ、十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ、五圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百六十一條ノ罪ニ於テ、事實ヲ陳述スルハ法律上ノ罪ヲ科スルノ限アリ、又、其ノ事トシテモ、姑ク衆議院ニ送リ、此等ノ人ハ當人ニ限リ、在者、ハハ初級

刑法草案



三三三條以下

自己ノ字不字取  
第百三條

因ラ疾病ニ罹リ及ヒ瘵篤疾又ハ死ニ致シタ  
ル者ハ前條ノ例ニ同シ

第百六十五條

祖父母父母ニ對シタル

及ヒ毆打創傷ノ罪ハ特別ノ宥恕減輕

ルコトヲ得ス但<sup>犯ル時知ラズ</sup>知<sup>知ラズ</sup>ラズ時ハ此限ニ在ラス

若シ特別ノ不<sup>知ラズ</sup>論罪ニ該シ者ハ各本刑ニ照ス

二等又ハ三等ヲ減ス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第百六十六條

自己ノ所有ト非<sup>物</sup>ル財物ヲ竊

取シタル者ハ竊盜ノ罪ト為シ二月以上四年

以下ノ重禁錮ニ處ス

第百六十七條

水火震災其他非常ノ變ニ乘

大光蒸捕ヲ拒キ  
人ヲ殺ス等ノ罪  
第百六十九條  
第百七十條  
第百七十一條

第百六十八條

門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若ク

ハ鎖鑰ヲ開

ル者ハ前條ノ

第百六十九條

第百七十條

第百七十一條

シテ他人ニ

シテ他人ニ

第百七十一條

シテ他人ニ

ヲシテ管守セシメタル時之ヲ竊取シタル者

刑部省 審判部

三ノ四ノ三條以下身金

自己ノ字不身取  
窃盗ノ條

因テ疾病ニ罹リ及ヒ癡篤疾又ハ死ニ致シタ  
ル者ハ前條ノ例ニ同シ

第 三 百 六 十 五 條

祖 父 母 父 母 ニ 對 シ タ ル 故 殺 罪

及、毆打創傷ノ罪ハ特別、宥恕減輕、  
及ヒ不諭罪ヲ用

ルヲ得ス但、  
犯ル時知ラザル者ハ  
知ラズル時ハ此限ニ在ラス

若シ特別、不諭罪ニ該シ者ハ、各本刑ニ照シ

テ等又ハ三等ヲ減ス

第 二 章 財 産 ニ 對 ス ル 罪

第 一 節 窃 盗 ノ 罪

第 三 百 六 十 六 條

自 己 ノ 所 有 ナ 非 ル 財 物 ヲ 窃

取シタル者ハ、窃盗ノ罪ト為シ二月以上四年

以下、重禁錮ニ處ス

第 三 百 六 十 七 條

水 火 震 災 其 他 非 常 ノ 變 ニ 乘

シテ窃盗ヲ犯シタル者ハ前條ノ刑ニ照シ一  
等ヲ加フ

第 三 百 六 十 八 條

門 戸 牆 壁 ヲ 踰 越 損 壞 シ 若 ク

ハ鎖鑰ヲ開キ木ノ邸宅ニ入り窃盗ヲ犯シタ  
ル者ハ前條ノ刑ニ照シ、  
六月以上五年以下、重禁錮ニ處ス

第 三 百 六 十 九 條

竊 盗 ノ 罪 人 以 上 又 一 等 ヲ 加 フ

又、  
前數條ノ刑ニ照シ、  
各一等ヲ加フ

第 三 百 七 十 條

竊 盗 ヲ 犯 シ タ

シテ人ノ住居ニ入リ、  
竊盗ヲ犯シタ  
ル者ハ、輕懲役ニ處ス

第 三 百 七 十 一 條

自 己 ノ 所 有 物 ト 雖 モ 典 物 ト

シテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命ニ因リ他人  
ヲシテ管守セシメタル時之ヲ窃取シタル者

第 三 百 七 十 二 條

竊 盗 ノ 罪 人 以 上 又 一 等 ヲ 加 フ

又、  
前數條ノ刑ニ照シ、  
各一等ヲ加フ

第 三 百 七 十 三 條

竊 盗 ノ 罪 人 以 上 又 一 等 ヲ 加 フ

又、  
前數條ノ刑ニ照シ、  
各一等ヲ加フ

大ニ悉テ捕テ  
人ヲ殺ス等、  
竊盗ノ罪人  
ノ刑ニ照シ、  
六月以上五年以下、  
重禁錮ニ處ス  
此条主トシテ、  
竊盗ノ罪人  
ノ刑ニ照シ、  
六月以上五年以下、  
重禁錮ニ處ス  
此条主トシテ、  
竊盗ノ罪人  
ノ刑ニ照シ、  
六月以上五年以下、  
重禁錮ニ處ス

刑 法 第 三 章 第 一 節 竊 盗 罪

三百六十  
者  
三百七十  
從

疾又ハ死ニ致シタ

母ニ對シタル故殺  
及ヒ不審罪ヲ用  
宥恕減輕

者ハ各本刑ニ照ス

罪

有キ非ル財物ヲ竊

為シ二月以上四年

其他非常ノ變ニ乘

六月以上五年以下ノ重  
前條ノ刑ニ照シテ

ヲ踰越損壞シ若ク

入り竊盜ヲ犯シタ

ノ重禁錮ニ處ス

以上ノ各一等ヲ加フ

竊盜ヲ犯シタ

有物ト雖モ典物ト

署ノ命ニ因リ他人

之ヲ竊取シタル者

刑罰法

三百二十九条二人以上前数條ノ罪ヲ犯シタル  
者ハ右一等ヲ加フ

三百七十条器具ヲ携帶シ人ノ住宅ニ侵入

邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕

懲役ニ處ス

ハ竊盜ヲ以テ論ス

第百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ  
産物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ  
重禁錮ニ處ス

第百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ  
産物ヲ竊取シ又川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生  
養シ若クハ營業ニ関シタル産物ヲ竊取シタ  
ル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第百七十四條 牧場ニ於テ牧養ノ獸類ヲ竊  
取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ  
處ス

第百七十五條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サ  
ントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ

照シテ處断ス

第百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ  
テ輕刑ニ處スル者ハ十年以下ノ監視ニ付ス

第百七十七條 夫婦祖父母父母子孫及ヒ其  
配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ  
用取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラズ

若シ他人其共犯ト為テ財物ヲ分チタル者ハ  
竊盜ヲ以テ論ス

第二節 強盜ノ罪

第百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘ  
テ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト為シ輕  
懲役ニ處ス

第百七十九條 強盜左ニ記載スル情狀アル

再議

共犯ニテテウエシテ  
各既ニタル者ハ世  
罪セズノ身ハ財  
物ノ真物ヲ分チタ  
ル者ハ強盜ニシテ  
全無ノ罪トス

人ヲ修テ二國  
セザル者ハ此罪  
ノ處ニ入ル

毒藥ヲ用  
スル者ヲ云フ

者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ

一二人以上共ニ犯シタル時

二兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百八十一條 強盜ヲ犯シ因テ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク為メ臨時暴行脅迫ヲ為シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏迷セシメ其財物ヲ奪取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處セラルタル者ハ一年以下ノ監視ニ付ス

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ本主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ三十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪親屬相犯ス者ハ第三百七十七條ノ例ニ從フ

刑法草案審判部

前二罪ヲ犯シタル者ニ依リ時ハ其罪ヲ

刑法草案審判部

前二罪ヲ犯シタル者ニ依リ時ハ其罪ヲ

強盗等ノ金等  
引引示事ニテ  
此等ノ不

再改

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條

家資分散ノ際ニ於テ其現在

財産及ヒ貸典ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚

偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ六月以上五年以

下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介

ヲ為シタル者亦同罪ニ減ス

第三百八十九條

家資分散ノ際簿類ヲ藏

匿毀棄シ又ハ分散決定ノ後債主ノ債主ノ一人

其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ

一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節 詐欺取財及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條

人ヲ欺誘シ又ハ恐喝シ其他偽計

ヲ用テ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者

ハ詐欺取財ノ罪ト為シ二月以上五年以下ノ

重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

若シ此條ノ罪ヲ犯ス為メ官私ノ文書ヲ偽

造變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キ

ニ從テ處断ス

第三百九十一條

幼者ノ智慮淺薄又ハ人ノ精

神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類

ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條

物件ヲ販賣シ又ハ交換スル

ニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ

刑罰部審判局

但以下、前後、係、手、此、三、限、

此、以下、前後、係、手、此、三、限、

交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シ

入テ騙購シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト為

シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己~~田~~有、不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト為

シタルヲ欺隠シテ他人ニ賣典シ又ハ重ネテ

抵當典物ト為シタル者亦同シ但判決ノ前ニ

第三百九十四條 受寄ノ財物及ヒ借用物又ハ

典物其他委託ヲ受タル金額物件ヲ費消シタ

ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス若

シ詐欺ノ所為アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十五條 寄屋倉庫及ヒ工人舟子脚夫馬下車力

事人貸給ヲ受ケ其委託セラレタル財物ヲ藏匿拐

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官

署ヨリ差押一更ニ付託シタル物件ヲ藏匿脱

逃シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ

處ス但家資分散ノ際ニ於テ此罪ヲ犯シタル

者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處断ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サ

ントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ

照シテ處断ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪親屬相

犯ス者ハ第三百七十七條ノ例ニ照シテ處断ス

刑罰法第百九章第百九節

刑罰法第百九章第百九節

此節皆再改。

第六節 贓物ニ関スル罪

第三百九十九條

ル丁ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ家蔵故買シ若クハ

重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス其他ノ犯罪ニ関スル物件ナルヲ知テ

シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ

處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百條

前條ノ罪ニ犯シタル者ハ

第七節 放火失火ノ罪

第四百一條

火ノ放テ故サラニ家屋其他建造

第四百二條

犯シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百三條

火ヲ放テテ山林ノ草木田

ル者ハ重懲役ニ處ス

其ノ人家稠密ノ地ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第四百四條

火ヲ放テ人ヲ乗載シタル船舶汽

車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其ノ人ヲ乗載セサル船舶汽車ニ係ル者ハ重懲

第四百五條

火ヲ放テ山林ノ草木田

刑罰書

刑罰書



住居不住者ヲ命  
クス

刑  
此條ノ内ニハ  
又ニ依テ屬斷ス

第四百六條 火ヲ放テ最ヤク自己ノ所有

係ル家屋其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ前數  
條ニ二年以下ノ懲罰ヲ處ス

第四百七條 第四百四十一條以下ニ記載シタル

ル放火ニ因テ更ニ重刑ニ處ス可キ家屋物件  
ニ延燒シタル時ハ其重キニ從テ處断ス

第四百八條 放火罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處  
スル者ハ二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬  
損害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁

錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ  
處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤

放火律ヲ改メ  
ハ此律ニ再議

煙  
此條ノ内ニハ  
又ニ依テ屬斷ス

氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ建造物船舶  
等ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失ト  
ヲ分テ放火失火ノ例ニ照シテ處断ス

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞

シテ故リ住居シタル家屋其他建造物ヲ沈没シタル  
者ハ無期徒刑ニ處ス其他ノ建造物  
若シハ住居シタル家屋其他ノ物件ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ  
故ナラシムル田圃坑牧場等ヲ荒廢シ又ハ水閘  
ノ流失シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ  
便益ヲ圖ル為メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞

シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年

刑

以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪例ニ照シテ處断ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處断ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所為ヲ以テ故サラ

ニ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所為ヲ以テ人ヲ乗載セ

サル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

放火罪他件ト  
不台改刑

自己船舶ト雖モ他人ノ物品ヲ積載シタル者亦同シ

第十節 家屋物品及ヒ動植物ヲ毀壞殘害スル罪

第四百十七條 故意ヲ以テ人ノ家屋其他建造

物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重

禁錮二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各

本條ニ照シ重キニ後テ處断ス

第四百十八條 故意ヲ以テ人ヲ家屋ニ屬スル

牆塀及ヒ園池ノ裝飾又ハ田畝ノ樊圍牧場ノ

柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下

ノ重禁錮二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

司法警察廳

第四百十九條 故意ヲ以テ人ノ稼穡竹木其他  
需用ノ植物ヲ毀損又ハ荒殘シタル者ハ十一  
日以上六月以下ノ重禁錮三圓以上三十圓以  
下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 故意ヲ以テ土地ノ經界ヲ表シ  
タル物件ヲ毀壞又ハ移轉シタル者ハ一月以  
上六月以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ  
罰金ニ處ス

自己ノ利ヲ圖ル為メ隣地ノ經界ヲ毀壞移  
轉シタル者ハ一等ヲ加フ  
第四百二十一條 故意ヲ以テ人ノ器具物品ヲ  
毀棄損壞シテ其用ニ適セサラシメタル者ハ  
十一日以上六月以下ノ重禁錮三圓以上三十

圓以下ノ罰金ニ處ス  
第四百二十二條 自己又ハ他人ノ為メ危害  
ヲ防衛スルニ非スシテ故意ニテ人ノ牛馬ヲ

殺害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮  
二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第四百二十三條 故意ヲ以テ前條ニ記載シタ  
ル以外ノ家畜ヲ殺害シタル者ハ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待  
テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 故意ヲ以テ人ノ權利義務ニ  
関スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以  
上四年以下ノ重禁錮三圓以上三十圓以下ノ  
罰金ニ處ス

第四編 違警罪

第四百二十五條

左ノ諸件ヲ犯ス者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一官署ノ規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬スル者

二官署ノ規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品又ハ自ラ火ヲ發スヘキ物品ヲ貯藏シタル者

三官署ノ許可ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫用ニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ又ヒ掃除スル規則ヲ遵守キタル者

六官署ノ替役ヲ背セス崩壞セシトスル家屋牆塼ノ修理ヲ為サ、ル者

七官許ヲ受スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セズ又ハ他所ニ移葬シタル者

九密ニ賣淫ヲ為シ又ハ其宿所ヲ貸シタル者

十人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

十一一定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十二遺警罪ノ犯人ヲ曲庇スル為メ偽證シタル者但被告人偽證ノ為メ刑ヲ免カレタル

刑法草案審査局

時ハ第二百二十一條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯ス者ハ二日以

上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一

圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

一人家ノ近傍又ハ山林野ニ於テ濫リニ火

ヲ焚ク者

二水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦スヘキ

ノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯シセサル者

三腐敗物其他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ販賣

シタル者

四健康ヲ保護スル為メ設ケタル規則又ハ傳

染病豫防ノ規則ニ背キタル者

五人ノ通行スヘキ場所ニアル危険ノ井溝其

他四所ニ蓋又ハ防圍ヲ為ササル者

六警察ノ規則ニ背キテ荷物其他水陸ノ運送

シタル者

七路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嗾シ又ハ驚逸

セシメタル者

八發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタ

ル者

九狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放逸シタ

ル者

十變死人ノ檢視ヲ受スシテ埋葬シタル者

十一人民集會シテ官署ヨリ退散スヘキ命ニ

從ハサル者

十二人ヲ殴打シテ傷疾疾病ニ至ル者

以上各條ヲ

川法部警察廳

第四百二十七條

左ノ諸件ヲ犯ス者ハ一日以

上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一

圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ為シ

タル者

二 制止<sup>ヲ背ル</sup>人ノ群集シタル場所ニ車馬

ヲ牽キタル者

三 夜中無提燈ニテ車馬ヲ疾驅スル者

四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又

ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者

五 路上ノ常燈ヲ消シタル者

六 瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者

七 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ之ヲ取除

カサル者

八 汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者

九 警察ノ規則ニ背キ<sup>テ</sup>商業ヲ為シタル者

十 醫師穩婆急病ノ時事故ナクシテ人ノ招キ

ニ應セサル者

十一 死亡ノ申告ヲ為サスシテ埋葬シタル者

十二 流言浮説ヲ為シテ人ヲ誑惑シタル者

十三 私有地外ニ濫リニ家屋塙塙ヲ設ケ又ハ

軒楹ヲ出シタル者

十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等

ヲ開キタル者

十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀

損シタル者

三三系  
前條ニ入

十六道路橋梁其他ノ場所ニ標示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

十七墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損又ハ汚瀆シタル者

十八神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

十九公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯ス者一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

一 飲食物ノ分量ヲ増加スル為メ他物ヲ混合シテ販賣シタル者

二 官署ヨリ價額ヲ定タル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

三 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取<sup>食</sup>又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

四 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスニテ通行シタル者

五 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ為シタル者

六 ~~要~~者ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ為シ又ハ惑ハシテ利ヲ圖ル者

七 官許ヲ得スニテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ背キタル者

川法草案審判部

往來通行  
ノ三例  
ハシ

八溝渠下水ヲ毀壞シ又ハ命官署ノ管領ヲ受テ溝渠

下水ヲ浚ハサル者

九制止ニ違テ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅

列シタル者

十許可トシテ獸類ヲ官有地ヘ放テ又ハ收養

養シタル者

十一身軀ニ刺文ヲ為シ及ヒ之ヲ業トスル者

十二他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放

シタル者

十三他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ記ス者ハ五錢以

上五十錢以下ノ科料ニ處ス

一橋梁又ハ堤防ノ害ト為ルルキ場所ニ舟筏

ヲ繫キタル者

二牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タハ又ハ木

石薪炭等ヲ堆積シテ往來ノ妨ケヲ為シタ

ル者

三車馬ヲ竝ニ牽テ人ノ通行ヲ妨ケタル者

四水路ニ於テ舟ヲ竝ニテ通船ヲ妨ケヲ為シ

タル者

五氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

六道路ノ掃除ヲ怠リタル者

七制止ニ違テ路上ニ遊戯ヲ為シ往來ヲ妨

ケタル者

八牛馬ヲ牽キ又ハ繫キテ忽カセニシテ

行人ノ妨害ヲ為シタル者

川去草茶審査局



九出入ノ禁止シタル場所ニ出シタル者

十通行ノ禁止シタル者

十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ官吏ノ制止ヲ肯ルセサル者

十二酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉卧シタル者

十三人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

十四邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

十五道路ニ於テ家畜ヲ殺害シタル者

十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜葉ヲ採食シ又ハ花卉ヲ折採シタル者

十七公園ノ花卉ヲ折採シ又ハ其規則ヲ犯シタル者

十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

十九無檢印ノ度量衡ヲ商業上ニ使用シタル者

第四百三十條 各地方ノ便宜ニヨリ施行スル所ノ規則ニ違背シタル者ハ犯情ノ輕重ニ從ヒ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

升  
法  
草  
學  
容  
在  
編  
卷

十  
六  
公  
國  
之  
法  
律  
學  
之  
概  
論  
一  
法  
律  
之  
概  
論  
二  
法  
律  
之  
源  
由  
三  
法  
律  
之  
發  
展  
四  
法  
律  
之  
功  
能  
五  
法  
律  
之  
體  
系  
六  
法  
律  
之  
原  
則  
七  
法  
律  
之  
解  
釋  
八  
法  
律  
之  
適  
用  
九  
法  
律  
之  
修  
正  
十  
法  
律  
之  
實  
施

